



岐阜大学



ミドリイロノジンセイ



-キャンパス植物まるわかりBook-



目次

プロジェクト紹介	P2-3
マップ	P4-13
冊子の使い方	P14
裸子植物	P15-20
被子植物	P21-59
つる植物特集	P28-29
紅葉特集	P42
特集ページ	P60-67
索引	P68-69

はじめに

キャンパス植物マップ作成プロジェクト

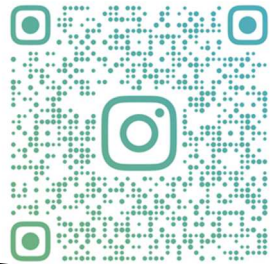
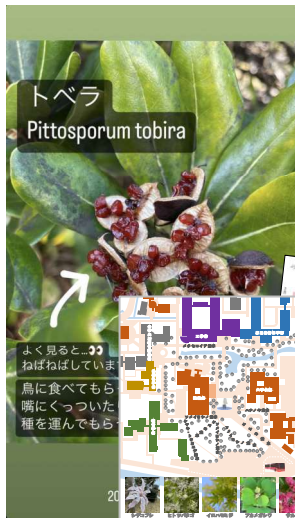
「植物を知る楽しさや面白さを多くの人に知ってもらいたい！」

そんな思いで活動を行っています。植物を好きになったのはつい最近…そんな植物初心者が立ち上げたプロジェクトです。今までは植物なんてすべて同じように見えていて、気にすることもなく通りすぎていました。しかし、よく見れば、それは違う植物で、それぞれ個性をもっています。植物を好きになってからは毎日が楽しく世界が輝いて見えています。実は、学内にはたくさんの種類の植物が生育しています。そこで、“多くの人に身近な自然に親しんでもらうこと”、“学内緑地の利用促進”を目的に、学内の植物マップ作りやInstagramを用いた学内の見ごろ植物の発信を行っています。

私たちが生活している景色の中には多くの植物が存在しています。意識しなければなかなか気づくことはありません。しかし、少し意識を向けるだけで世界は大きく広がり輝きはじめます。すべて同じように見えていたものに実は違いがあったり、よくみたら今まで気づかなかった植物が生えていたり。これを機会に皆さんも植物を好きになって、人生を輝かせてみませんか。

「ミドリイロノジンセイ」をスタートさせましょう！

このプロジェクトは「令和4年度基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト事業」の支援をいただいて活動しています。作成にあたりご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



ー プロジェクトの主体である団体の紹介 ー



鳥ヶ池自然再生プロジェクト

20世紀近く放置され、自然環境の劣化と生物多様性の低下が進んだ鵜ヶ池（ばんがいけ）の自然再生・生物多様性保全に学生主体で取り組んでいます。学内外の専門家のご協力のもと科学的知見に基づいた様々な取り組みを行っています。水と緑豊かなキャンパスが、学生や地域の人々が実物に触れて環境学習を行う場としてさらに活用されることを目指しています。



G-amet

東海国立大学機構 岐阜大学

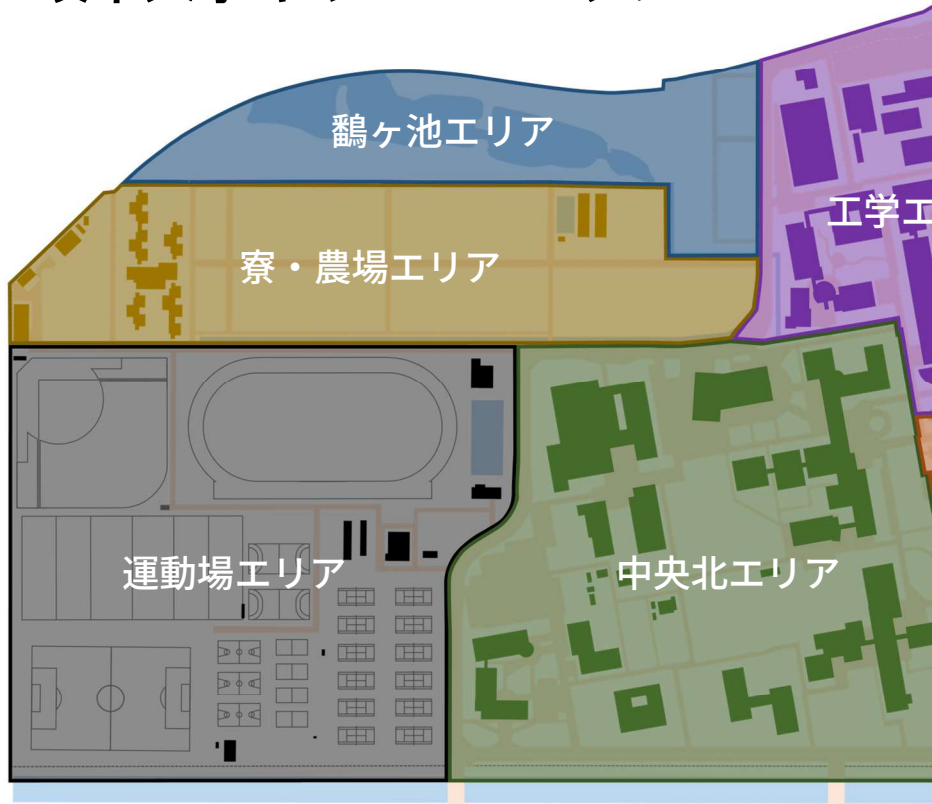
環境ユニバーシティ学生推進室

TOKAI NATIONAL HIGHER EDUCATION AND RESEARCH SYSTEM
GIU UNIVERSITY STUDENT PROMOTION OFFICE FOR SUSTAINABLE CAMPUS

G-amet（ジャメット）の愛称で親しまれ、立場・世代・専門分野の枠を超えて環境課題に取り組んでいる大学公認サークルです。学生や教職員、地域社会の環境意識の向上を目指すとともに、「自然環境と共生し地域社会に貢献する持続可能なキャンパス」「社会の変革に対応した個性的で魅力あるキャンパス」の実現に向けて活動を展開しています。



岐阜大学キャンパスマップ



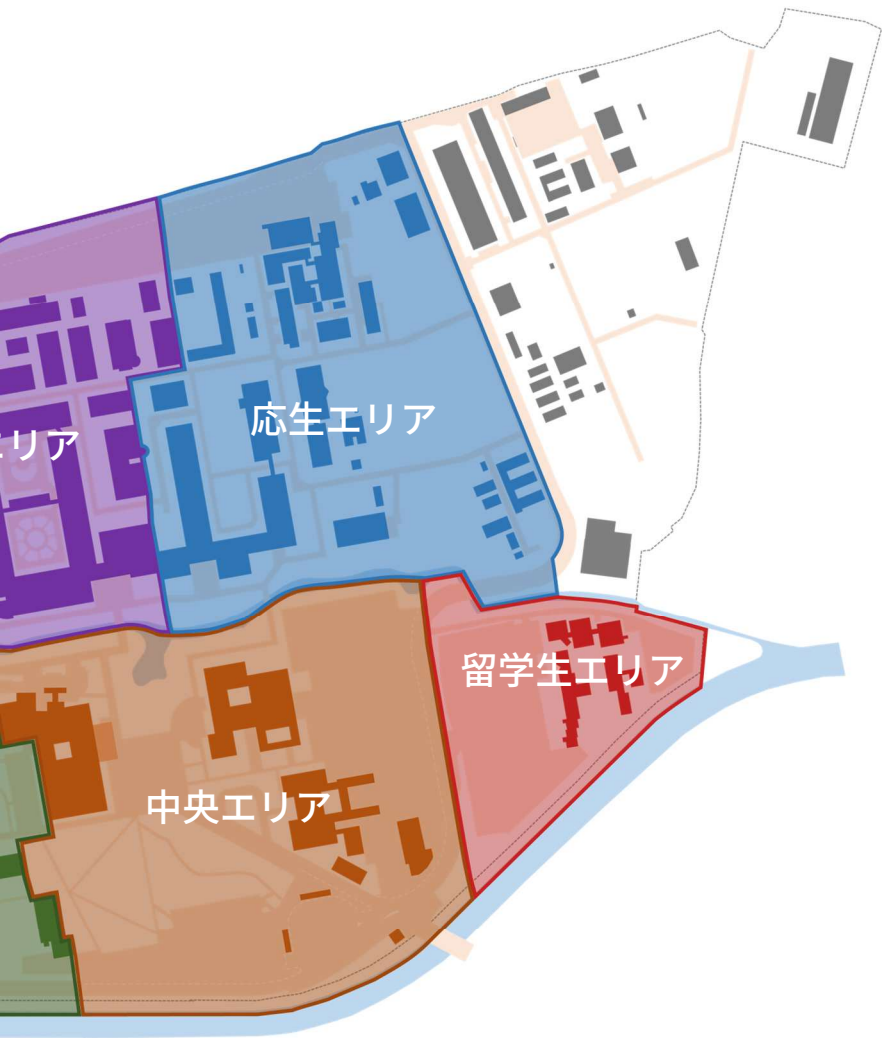
エリアスタンプ凡例

中 中央エリア

留 留学生エリア

応 応生エリア

工 工学エリア



北

中央北エリア

運

運動場エリア

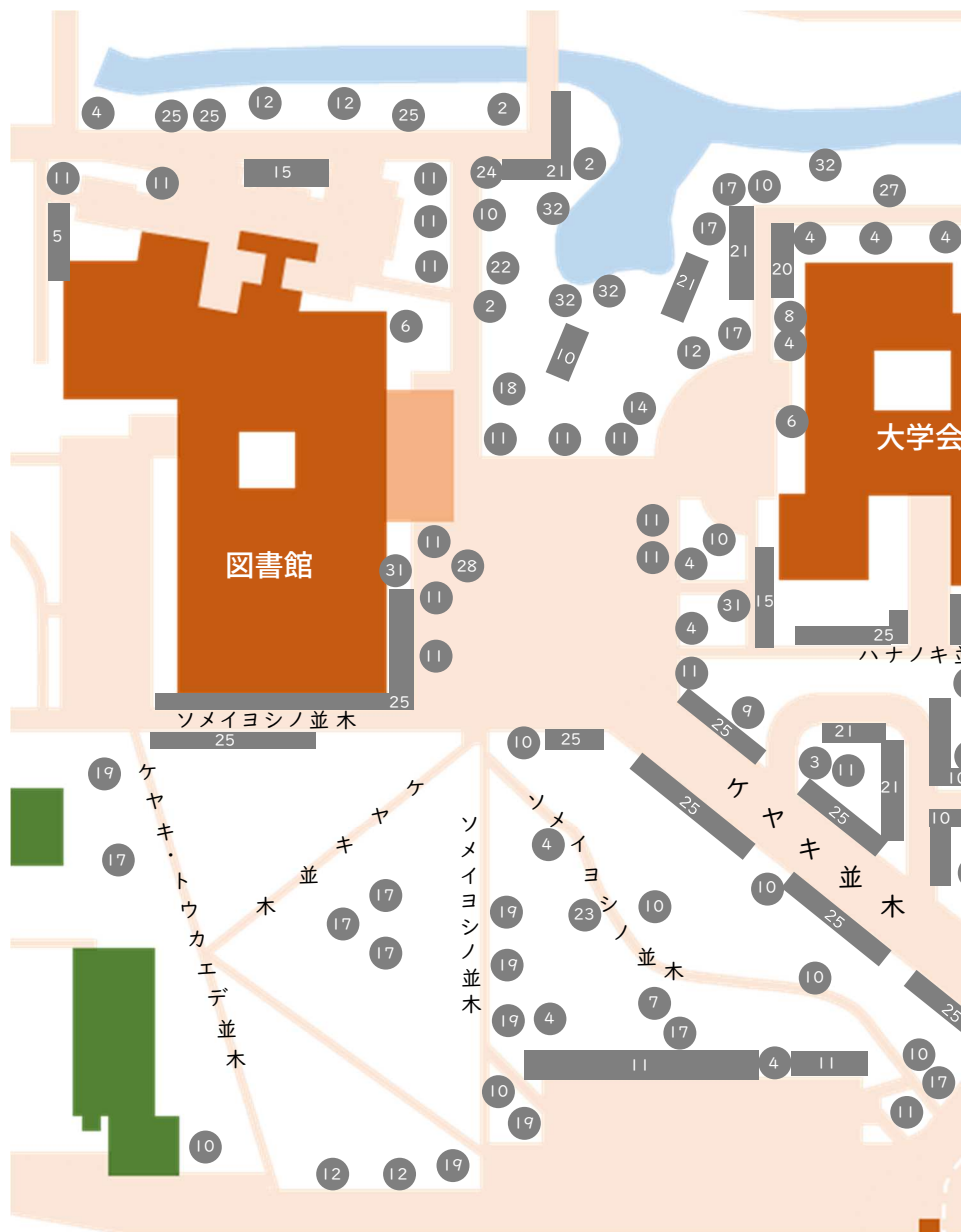
寮

寮・農場エリア

池

鶴ヶ池エリア

中央エリア





- | | | | |
|------------|------|-----------|------|
| ① アカメガシワ | p.41 | ②6 プラタナス | p.27 |
| ② アメリカハナノキ | | ②7 マユミ | p.40 |
| ③ イチイ | p.20 | ②8 ミズナラ | p.35 |
| ④ イチョウ | p.16 | ②9 メタセコイア | p.19 |
| ⑤ イヌツゲ | | ③0 モッコク | p.51 |
| ⑥ イヌマキ | p.17 | ③1 ラカンマキ | p.17 |
| ⑦ ウメ | p.30 | ③2 ラクウショウ | p.19 |
| ⑧ エノキ | p.33 | | |
| ⑨ カツラ | p.27 | | |
| ⑩ キンモクセイ | p.56 | | |
| ⑪ クスノキ | p.24 | | |
| ⑫ クロガネモチ | p.58 | | |
| ⑬ ケヤキ | p.32 | | |
| ⑭ コブシ | p.22 | | |
| ⑮ サツキ | p.54 | | |
| ⑯ シュロ | p.26 | | |
| ⑰ ソメイヨシノ | p.30 | | |
| ⑱ ツブラジイ | p.37 | | |
| ⑲ トウカエデ | p.46 | | |
| ⑳ ドウダンツツジ | p.54 | | |
| ㉑ ナンテン | p.26 | | |
| ㉒ ニシキギ | p.40 | | |
| ㉓ ハクモクレン | p.23 | | |
| ㉔ ハナミズキ | p.45 | | |
| ㉕ ヒラドツツジ | p.54 | | |

※アメリカハナノキはハナノキの可能性ががあります。

中央北エリア





- | | | | |
|-----------|------|-----------|------|
| 1 アオキ | p.55 | 26 ソテツ | p.16 |
| 2 アキニレ | p.32 | 27 ソメイヨシノ | p.30 |
| 3 アベリア | p.59 | 28 タイサンボク | p.22 |
| 4 アラクシ | p.36 | 29 タブノキ | p.25 |
| 5 イチョウ | p.16 | 30 ツバキ | |
| 6 イヌマキ | p.17 | 31 ツブラジイ | p.37 |
| 7 ウメ | p.30 | 32 トウカエデ | p.46 |
| 8 カナメモチ | p.31 | 33 トベラ | p.59 |
| 9 カワツザクラ | | 34 ナンキンハゼ | p.41 |
| 10 キハダ | p.47 | 35 ナンテン | p.26 |
| 11 キンモクセイ | p.56 | 36 ハナミズキ | p.50 |
| 12 クスノキ | p.24 | 37 ヒトツバタゴ | p.56 |
| 13 クチナシ | p.55 | 38 ヒノキ | p.18 |
| 14 クロガネモチ | p.58 | 39 ヒラドツツジ | p.54 |
| 15 クロマツ | p.17 | 40 マサキ | p.41 |
| 16 クロモジ | p.26 | 41 プラタナス | p.27 |
| 17 ケヤキ | p.32 | 42 ホオノキ | p.24 |
| 18 サザンカ | p.52 | 43 ミズナラ | p.35 |
| 19 サルスベリ | p.44 | 44 モチノキ | |
| 20 サンシュユ | p.50 | 45 モッコク | p.51 |
| 21 シデコブシ | p.23 | 46 ヤマモミジ | p.45 |
| 22 シャリンバイ | p.31 | 47 ラカンマキ | p.17 |
| 23 シラカシ | p.36 | | |
| 24 スギ | p.20 | | |
| 25 スタジイ | p.37 | | |

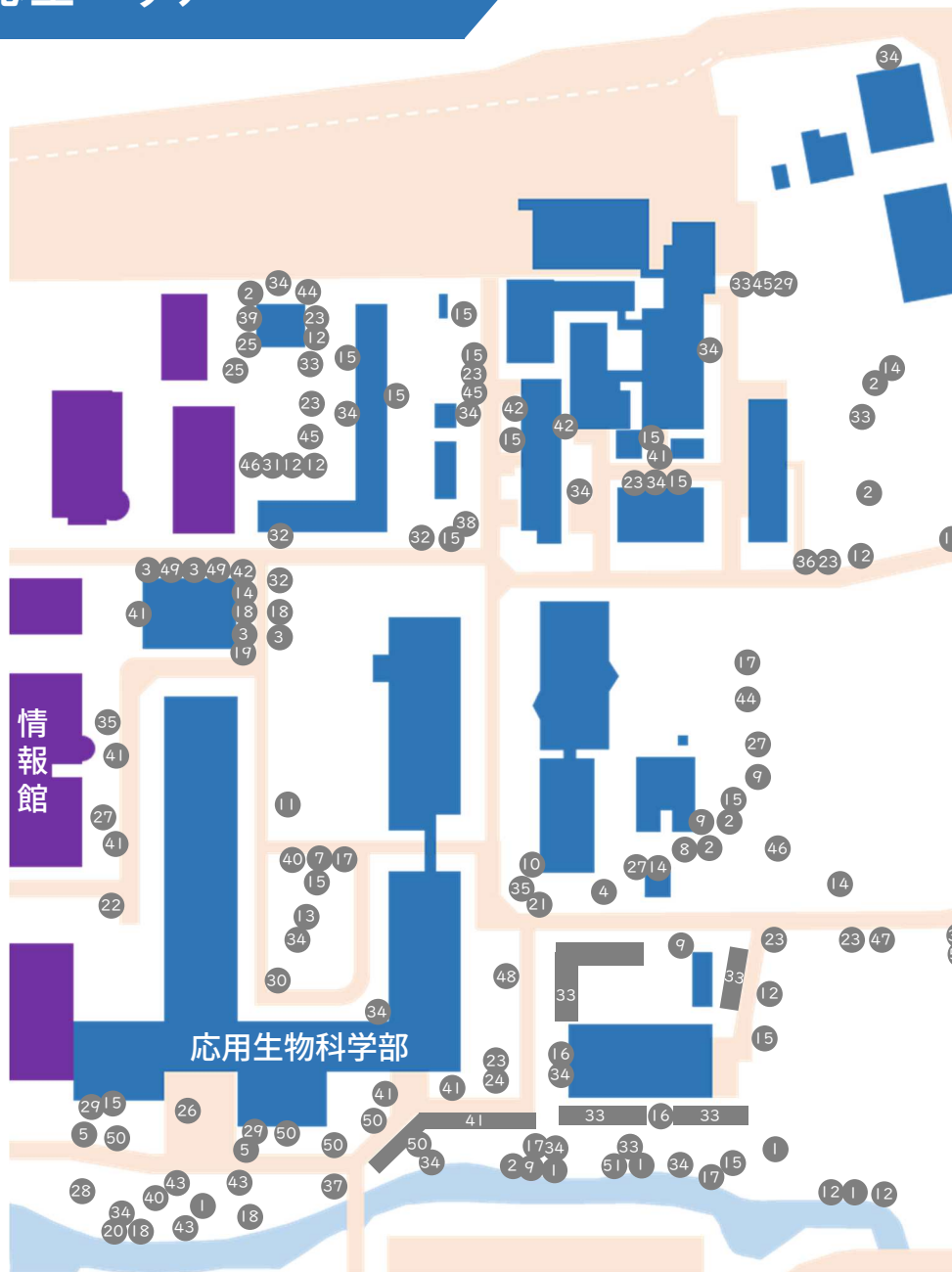
工学エリア





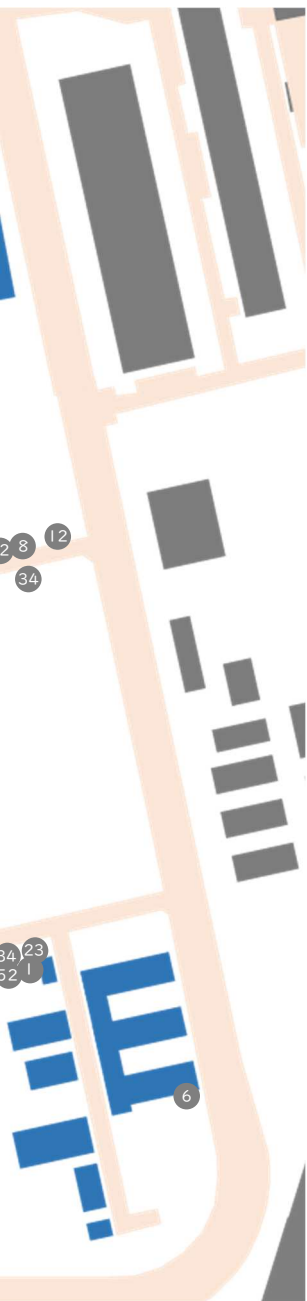
- | | | | | | |
|----|--------|------|----|--------|------|
| 1 | アカメガシワ | p.41 | 26 | ムクノキ | p.33 |
| 2 | アキニレ | p.32 | 27 | メタセコイア | p.19 |
| 3 | イチョウ | p.16 | | | |
| 4 | イロハモミジ | p.45 | | | |
| 5 | ウメ | p.30 | | | |
| 6 | オニグルミ | p.40 | | | |
| 7 | カツラ | p.27 | | | |
| 8 | キンモクセイ | p.56 | | | |
| 9 | クスノキ | p.24 | | | |
| 10 | クロガネモチ | p.58 | | | |
| 11 | ケヤキ | p.32 | | | |
| 12 | コブシ | p.22 | | | |
| 13 | サザンカ | p.52 | | | |
| 14 | シデコブシ | p.23 | | | |
| 15 | シュロ | p.26 | | | |
| 16 | シラカシ | p.36 | | | |
| 17 | スタジイ | p.37 | | | |
| 18 | ソテツ | p.16 | | | |
| 19 | ソメイヨシノ | p.30 | | | |
| 20 | トチノキ | p.46 | | | |
| 21 | ナワシログミ | p.32 | | | |
| 22 | ハナノキ | p.45 | | | |
| 23 | フヨウ | p.48 | | | |
| 24 | ホソバタブ | p.25 | | | |
| 25 | ムクゲ | p.49 | | | |

応生エリア



情報館

応用生物科学部



①	アオキ	p.55	②7	ソメイヨシノ	p.30
②	アカメガシワ	p.41	②8	タブノキ	p.25
③	アベマキ	p.35	②9	ツバキ	p.52
④	アベリア	p.59	③0	ツブラジイ	p.37
⑤	イチイ	p.20	③1	トウカエデ	p.46
⑥	イヌツゲ		③2	トチノキ	p.46
⑦	イヌマキ	p.17	③3	トベラ	p.59
⑧	イロハモミジ	p.45	③4	ナンテン	p.26
⑨	エノキ	p.33	③5	ハクモクレン	p.23
⑩	オニグルミ	p.40	③6	ハコネウツギ	p.59
⑪	カツラ	p.27	③7	ハナノキ	p.45
⑫	カナメモチ	p.31	③8	ハリエンジュ	
⑬	キャラボク		③9	ヒサカキ	p.51
⑭	キンモクセイ	p.56	④0	ヒトツバタゴ	p.56
⑮	クロガネモチ	p.58	④1	ヒラドツツジ	p.54
⑯	クロマツ	p.17	④2	ビワ	
⑰	ケヤキ	p.32	④3	ホソバタブ	p.25
⑱	コブシ	p.22	④4	マグワ	p.33
⑲	サルスベリ	p.44	④5	マサキ	p.41
⑳	シデコブシ	p.23	④6	マテバシイ	p.37
㉑	シナレンギョウ	p.55	④7	マンサク	
㉒	シマトネリコ		④8	ミズキ	
㉓	シャリンバイ	p.31	④9	ミズナラ	p.35
㉔	シラカシ	p.36	⑤0	メタセコイア	p.19
㉕	スタジイ	p.37	⑤1	モッコク	p.51
㉖	ソテツ	p.16	⑤2	ヤマハゼ	p.44

※ハナノキはアメリカハナノキの可能性があります。

この冊子の使い方

この冊子では、岐阜大学キャンパスで見ることのできる代表的な野生・植栽の樹木99種類を紹介しています。後半の特集ページでは草本も掲載しています。ぜひ、この冊子を片手にキャンパスの植物観察を楽しんでください！

常緑 or 落葉：

常緑樹か落葉樹をバーの色で示しています。

常緑樹

落葉樹

和名：一般に広く使われ、分かりやすいものを選んでいきます。

エリアアイコン：観察できる主なエリアを示しています。

スケッチ：特徴を1つ1つスケッチして載せています。

ハナノキ



学名：*Acer pycnanthum*

分類：ムクロジ科 カエデ属

落葉高木 (7-25m) 3-4月 対生

長野、岐阜、愛知の温帯



東海地方に分布する日本固有種で、春先に咲く紅色の花と秋の紅葉は、共に美しいです。樹皮や葉を煎じたものが洗眼薬として用いられます。愛知県の県木にも選定されています。

解説文：その種の特徴や名前の由来、豆知識などを紹介しています。

学名：「BG Plants 和名-学名インデックス (YList)」に従いました。

分類：APG植物分類体系に基づいて、科の和名、属の和名を示しました。

形態：落葉・常緑や高さによる区別、成木の標準的な樹高を示しています。

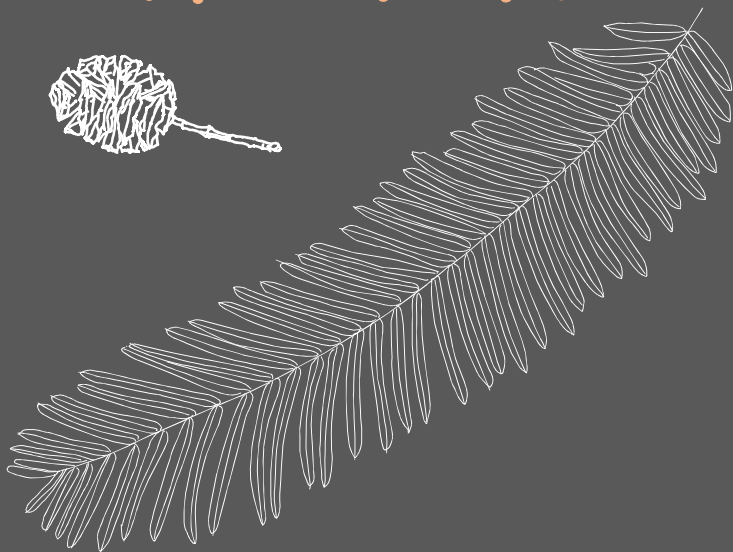
花期：主に岐阜大学で開花が見られる時期を記しています。
アイコンの色は、花の色を示しています。

葉のつき方：互い違い (互生)、対称 (対生)、
その他 (束状、はね状、鱗状など) を示しています。

分布：原則として、日本国内の自生地での分布です。



裸子植物



ソテツ

北 応 工

学名：*Cycas revoluta*

分類：ソテツ科 ソテツ属

常緑低木(2-6m) 6-8月 其他

九州南部～沖縄の主に亜熱帯

ソテツは漢字で「蘇鉄」と書き、木が弱ったとき、株元へ鉄を打ち込むと元気が戻ったことから「鉄で蘇生する」と名付けられました。花は10年に一度しか咲かず、なかなか見ることができません。庭木や観葉植物としても人気の高い樹木です。



イチョウ

中 北 応 工 運 寮 池

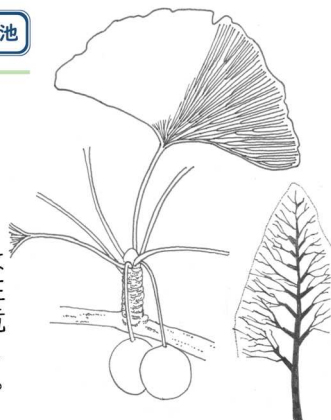
学名：*Ginkgo biloba*

分類：イチョウ科 イチョウ属

落葉高木(10-30m) 4-5月 互生

中国

公園や学校によく植栽される樹木で、実は銀杏として有名です。ジュラ紀に栄え、現在まで残っていますが、仲間の種の多くは恐竜とともに絶滅し、現在はイチョウ科の種はこの1種のみです。生きた化石とも呼ばれます。



植物にも雄雌がある？

動物では雄と雌が別個体であることが一般的です。植物ではどうでしょう？ 多くの植物が両性花（おしべとめしべを持つ）を付けています。なかには雌花（めしべをもつ）、雄花（おしべをもつ）の2つの花をつける、ゴーヤのような植物も存在しています。さらに、動物のように雄と雌が別個体である植物も存在します。このような植物を雌雄異株と呼びます。これに対して雄と雌が同個体である植物を雌雄同株と呼びます。イチョウは雌雄異株です。イチョウの雌と雄は見た目が異なっていて、見た目で見分けることができます。雄は水平に、雌は斜上して枝をつけます。イチョウをみかけたらじっくりみてみましょう！

クロマツ

北 応

学名： *Pinus thunbergii*

分類： マツ科 マツ属

常緑高木(5-35m) 4-5月 其他

本州～九州の暖温帯

生命力が強く、古くから長寿と繁栄を象徴する縁起の良い木として和風庭園の主役として使われます。また、砂防、造林などの実用を目的として海岸沿いに植栽されることも多いです。雌花の後に付ける球果(松ぼっくり)は赤松より大きいです。



イヌマキ

中 北 応

学名： *Podocarpus macrophyllus f. angustifolius*

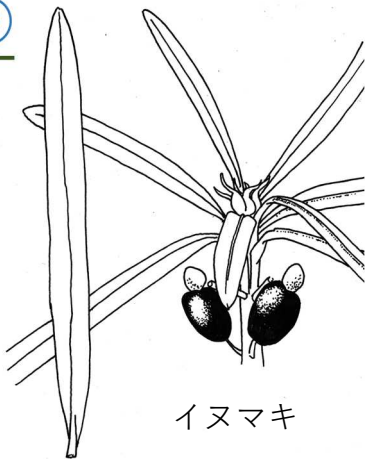
分類： マキ科 イヌマキ属

常緑高木(5-20m) 5-6月 其他

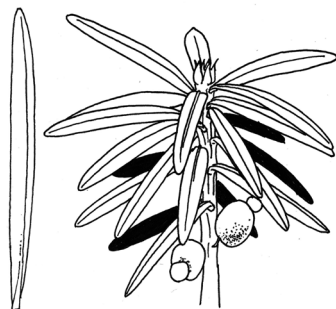
関東～沖縄の暖温帯・亜熱帯

「犬」と名につく場合、類似する植物に比べて劣る点が見受けられることが多く、コウヤマキを「ホンマキ」と呼ぶのに対して、葉や姿形が劣るとして本種を「イヌマキ」と呼ぶようになったそうです。雌雄異株で、雌株になる実は熟すと赤黒くなり、甘みがあって生食できます。しかし、対になってできる緑色の種子には毒があるため注意が必要です。淡い黄色の材は重くて堅く、耐久性、耐水性に優れています。似た仲間にラカンマキ

[*Podocarpus macrophyllus f. macrophyllus*] があります。イヌマキに比べて葉が細く、短く、密生するという特徴を持ちますが、識別は難しいです。日本以外にも中国や台湾に分布していますが、本来の自生地はよくわかっていないようです。花托の上の種子の形が坊主頭に見え、まだ仏になりきらない羅漢(らかん)に例えたことから名前が付けられました。実はイヌマキ同様、生食が可能です。イヌマキとともに庭木によく用いられる樹木の一つです。



イヌマキ



ラカンマキ

ヒノキ

北 池

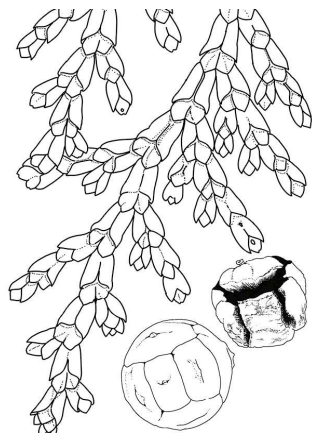
学名：*Chamaecyparis obtusa*

分類：ヒノキ科 ヒノキ属

常緑高木(10-30m) 3-5月 ▲その他

本州～九州の主に冷温帯

ヒノキの材は木目の美しさ、香りの良さ、耐久性や耐水性の高さから優良な建築材とされています。ヒノキの葉には殺菌及び防腐効果のある脂分が含まれています。国内での植栽の面積としてはスギに次いで多く、花粉症の原因となります。



サワラ

北 応

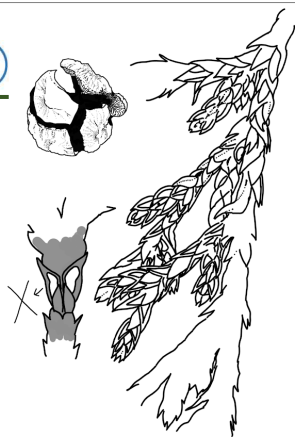
学名：*Chamaecyparis pisifera*

分類：ヒノキ科 ヒノキ属

常緑高木(10-30m) 4月 ▲その他

本州、九州の主に冷温帯

枝と枝の隙間が多く、樹形全体が「さはらか(さっぱり)の意」な雰囲気を持つためサワラと名付けられました。材は針葉樹の中でも格別に柔らかくて軽く、柱などの構造材には向きませんが、脂分が多くて水に強いです。



アスナロ

応 池

学名：*Thujopsis dolabrata* var. *dolabrata*

分類：ヒノキ科 アスナロ属

常緑高木～低木(1-30m) 4-5月 ▲その他

北海道西部～九州の冷温帯

日本に固有の樹木です。植栽されることは少なく、材木としての利用が多いです。材は良質で湿気に強く、シロアリに対する耐久性もあることから、建築物の土台材や風呂桶などに用いられます。



メタセコイア



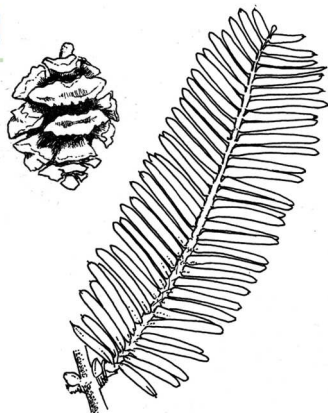
学名：*Metasequoia glyptostroboides*

分類：ヒノキ科 メタセコイア属

落葉高木(15-40m) 2-4月 ▲その他

中国

昔は日本にも自生していたことが分かっていますが、気候変動によって絶滅したとされています。各地の公園や街路などに植栽され、イルミネーションをくりつけてクリスマスツリーにされることもあります。



ラクウショウ



学名：*Taxodium distichum*

分類：ヒノキ科 ラクウショウ属

落葉高木(10-30m) 4月 ▲その他

北アメリカ

落葉性で葉が鳥の羽のような形をしている針葉樹であることから「落羽松」と名付けられました。湿潤地に適応して、冠水するような湿地に植えると、幹の周りに呼吸のための気根が生じます。



メタセコイアとラクウショウどこがちがうの？

メタセコイアとラクウショウは樹形、樹高が似ていて、一見すると同じ植物のように見えますよね。似ているこの2種の違いをご紹介します。1つ目は呼吸根と呼ばれる空気を吸うために地表に出す根をもつかどうかです。ラクウショウのまわりには呼吸根がありますが、メタセコイアにはありません。しかし、公園ではけがの危険性を考えて、切ってしまうこともあるようです。そこで、ポイントになるのが2つ目の見分け方です。実はこの2種には枝や葉のつき方に違いがあります。メタセコイアは葉が対生（左右対称）についているのに対して、ラクウショウでは互生（左右互い違い）についています。見かけたらぜひ比べてみてください！

スギ

北 池

学名：*Cryptomeria japonica*

分類：ヒノキ科 スギ属

常緑高木(15-40m) 🌸3-4月 ▲その他

■本州～九州の温帯に植林または自生

まっすぐに育つことから「直の木」と呼ばれそれが転じて現在の名前になったと言われています。日本の樹木の中では最も広い面積に植林されています。ヒノキと共に花粉症の原因となります。



イチイ

中 応

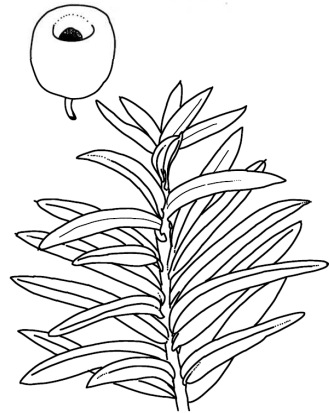
学名：*Taxus cuspidata*

分類：イチイ科 イチイ属

常緑高木～低木(1-20m) 🌸3-4月 ▲その他

■北海道～九州の冷温帯・亜高山帯

果実は甘く、食用や果実酒用となりますが、全体的に毒を持っており、種には強い毒を持ちます。イチイの材は緻密で硬く、表札や建材仏像などに用いられます。彫刻としては岐阜高山の一刀彫りで有名です。



岐阜県の木「イチイ」

各都道府県には県の木というものが選定されています。岐阜県では県の木としてイチイが選定されています。東海三県では、愛知県は「ハナノキ」、三重県では「神宮スギ」が選定されています。

木以外にも花や鳥、魚なども選定されています。岐阜県の花は「レンゲ草」、鳥は「ライチョウ」、魚は「アユ」です。県以外でも各市区町村でこれらが選定されている場合もあります。自分の出身地や住んでいる地域の木や花などを調べて、楽しみましょう！生き物に詳しくなる第一歩になるかもしれません。



被子植物



タイサンボク

中 北 応 エ

学名：*Magnolia grandiflora*

分類：モクレン科 モクレン属

常緑高木～小高木(5-20m) 6月 互生

北アメリカ

名前は木の姿を中国の泰山に例えたと言われています。モクレンの仲間でも特に大型の花を付けます。花が綺麗なことから鑑賞のため各地の公園や園庭、街路に植栽されています。



コブシ

中 北 応 エ 運 池

学名：*Magnolia kobus*

分類：モクレン科 モクレン属

落葉高木(7-25m) 3-4月 互生

北海道、本州、九州の温帯

コブシには「田打ち桜」、「田植え桜」などの別名があり、コブシがたくさん咲いた年は豊作になるという言い伝えがあります。花にはレモンのような香りがあり、つぼみと共に花酒や花茶に使われます。



ハクモクレン

中

学名：*Magnolia denudata*

分類：モクレン科 モクレン属

落葉高木(7-15m) ♀ 3-4月 ↓ 互生

中国

シモクレン(モクレン)に対して、花が白いことから名前が付けられました。果実は袋状で、握りこぶしのような特異な形状になります。街路樹や庭木として多く植栽されています。



シモクレン

広

学名：*Magnolia liliiflora*

分類：モクレン科 モクレン属

落葉低木~小高木(2-4m) ♀ 4月 ↓ 互生

中国

モクレンというと一般に本種のことを指します。花が蓮に似ることから、「木蓮(モクレン)」と呼ばれるようになりました。樹皮とつぼみを薬用とし、漢方では乾燥させた蕾を用います。



シデコブシ

中 北 エ

学名：*Magnolia stellata*

分類：モクレン科 モクレン属

落葉小高木~低木(7-20m) ♀ 5月 ↓ 互生

愛知、岐阜、三重

自生地は開発が進むにつれて荒れ、現代では野生種の絶滅が危惧されています。庭木や盆栽として多く利用されます。風になびく花弁が神社で使われるシデに似ることから名前がつけられました。



ホオノキ

北池

学名：*Magnolia obovata*

分類：モクレン科 モクレン属

落葉高木(10-30m) 5-6月 互生

北海道～九州の温帯

葉は長さ20～30センチと大きく、「ホオバ」と呼ばれ、食べ物を包むのに使われていました。花の寿命は3日間ですが、大きな花は散り際が綺麗で、「朴散華」という言葉がある程です。材は緑色を帯びています。



クスノキ

中北運

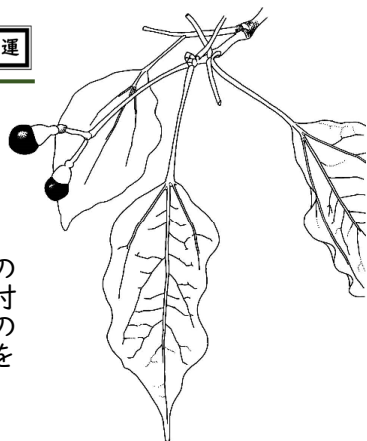
学名：*Cinnamomum camphora*

分類：クスノキ科 クスノキ属

常緑高木(10-30m) 5-6月 互生

関東～沖縄の暖温帯・亜熱帯

「薬の木」と呼ばれそれが変化して現在の名前になったとされています。葉の付け根付近に3本の葉脈が目立ち、分岐点にはダニの住む小袋を持ちます。防虫効果を持ち、葉をちぎると特有の匂いを放つのが特徴です。



天然の防虫剤“樟脳”を持つクスノキ

香料や防虫剤などに使われ、「薬の木」や「奇すしき木(くすしきき)」などと呼ばれていました。衣類向けの防虫製品が豊富になかった時代、一般家庭では樟脳を使ってタンスや押し入れの中の衣類を虫食いから守っていました。以前は防虫効果のある樟脳を取るため、人里近くの山林でよく栽培されていましたが現在では、科学的に合成できるため、樟脳を取る目的での栽培はされていません。近年、天然由来の安全性と安心感から家庭用の防虫剤として改めて注目され始めています。しかし、燃えやすいことや体内に入ると有毒であること、密閉しておかないと揮発してしまうことなどから使用の際には注意が必要です。

タブノキ

応

学名：*Machilus thunbergii*

分類：クスノキ科 タブノキ属

常緑高木(5-25m) 4-6月 互生

本州～沖縄の暖温帯・亜熱帯

材質はやや硬く、クスノキに似ていますが、クスノキに比べて用途が少ないため、「イヌグス」とも呼ばれています。果実は果肉が少なく、エグ味があるものの、食べられないほどではありません。好んで食べる鳥もいます。



ホソバタブ

応 エ

学名：*Machilus japonica*

分類：クスノキ科 タブノキ属

常緑高木(5-20m) 4-5月 互生

東海～沖縄の暖温帯・亜熱帯

新緑が美しく、葉がカシに似ていることから「青檜」とも呼ばれます。春になると一斉に葉を入れ替えます。タブノキとよく似ていますが、葉が細長いことや波打っていることから識別ができます。



MEMO 

クロモジ

北

学名：*Lindera umbellata*

分類：クスノキ科 クロモジ属

落葉低木(1-5m) ♀ 9月 ↓ 互生

北海道西部～九州北部の温帯

樹皮にできる黒い斑点を文字に見立てて「黒文字」と名付けられたと言われています。樹皮や葉には芳香成分が含まれ、柑橘系に似た特有の香りを持っています。クロモジの材で作られた爪楊枝は高級品です。



シュロ

中

北

工

池

学名：*Trachycarpus fortunei*

分類：ヤシ科 シュロ属

常緑小高木(3-10m) ♀ 5-6月 ▲ その他

九州南部に自生、東北南部～九州で野生化

数少ない日本原産のヤシ科の植物です。葉は丈夫で持ちやすく、切断した葉をそのままほうきとして使うことができます。幹には暗褐色の繊維が密生し、たわしや敷物などに使われます。



ナンテン

中

北

庭

工

学名：*Nandina domestica*

分類：メギ科 ナンテン属

常緑低木(1-3m) ♀ 5-6月 ↓ 互生

中国(日本在来説もあり)

赤い果実や紅葉を観賞するため、庭木や盆栽、正月飾りなどに多く利用されます。実には毒が含まれますが、乾燥させて漢方薬として利用されています。



プラタナス

中 工 運

学名：*Platanus × acerifolia*

分類：スズカケノキ科 スズカケノキ属

落葉高木(10-25m) 5月 互生

雑種

和名はモミジバスズカケノキといい、スズカケノキの仲間で葉がモミジに似ることから名前が付けられています。大きな葉で木陰を作ることを目的として植栽されることが多い様です。



カツラ

中 応 運 池

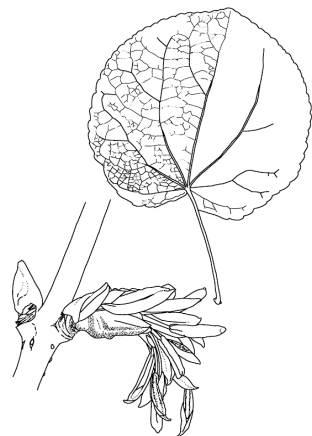
学名：*Cercidiphyllum japonicum*

分類：カツラ科 カツラ属

落葉高木(10-30m) 3-5月 対生

北海道～九州の冷温帯

葉はしおれるとキャラメルのような甘い香りがします。葉が香ることから、香りが出るといふ意味の「香出る(かづる)」から名前が付けられたと言われていいます。白亜紀から生き延びる原始的な樹木の1つです。



エンジュ

中

学名：*Styphnolobium japonicum*

分類：マメ科 エンジュ属

落葉高木(7-20m) 7-8月 互生

中国

古名である「えにす」が転じて現在の名前になりました。えにすは中国語でエンジュの実を表す言葉であった「えす」を起源としています。ゆでて苦みを取り除いた新葉は食用に、乾燥させたものは茶や薬となります。



フジ

北池



学名：*Wisteria floribunda*

分類：マメ科 フジ属

落葉つる性木本(2-20m) ♀5月 ↓ 互生

本州～九州の温帯

日本に固有の樹木です。ツルは丈夫で、これを編んで椅子やかごを作ったり、繊維からひもや布を作るのに利用されてきました。藤棚をつくり、花を密生させて観賞することができます。

岐阜大学のつる植物

フジ以外にも、大学内では多くのつる植物を見ることができます。このコーナーでは、大学内の木本性のつる植物を紹介します。

アケビ

Akebia quinata

アケビ科 アケビ属

果実は秋になると縦に割れ、半透明の果肉に包まれた多数の種子が現れます。種子を包んでいるゼリー状の果肉は食べることができ、ほんのりとした甘さがあります。



アオツツラフジ

Cocculus trilobus

ツツラフジ科 アオツツラフジ属

果実は鮮やかな藍色に熟しますが、この果実は有毒であるため注意が必要です。和名は、かつてこの植物のツルでツツラ（衣類を入れるかご）を編んだことと、青い実をつけることに由来します。



ツルウメモドキ

Celastrus orbiculatus

ニシキギ科 ツルウメモドキ属

秋には黄色の外皮が割れ、橙赤色の仮種皮に包まれた種子を観察できます。葉がすっかりと落ちた後に、枝を覆うように種子が橙赤色に色づく姿は非常に美しいです。



トケイソウ

Passiflora caerulea

トケイソウ科 トケイソウ属

和名は3つに分裂した雌しべが、まるで時計の長針、短針、秒針に見える花を咲かせることに由来します。仲間であるクダモノトケイソウの果実は、パッションフルーツとして食用にされます。



ヘクソカズラ

Paederia foetida

アカネ科 ヘクソカズラ属

和名は葉を揉んだり、茎を折ったりすると不快なおいがすことに由来します。その一方で内側が暗赤色に染まる白い花は可愛らしく、「サオトメカズラ（早乙女蔓）」という別名を持ちます。



カナリーキヅタ

Hedera canariensis

ウコギ科 キヅタ属

カナリア諸島、北アフリカ原産のつる植物です。日本在来のキヅタに比べ、葉が大きく、地面を覆うグラウンドカバーとして公園や路側帯などの緑化に利用されています。



ソメイヨシノ 中 北 応 工 運 察 留

学名：*Cerasus × yedoensis*

分類：バラ科 サクラ属

落葉高木(7-15m) ♀9月 ↓互生

□ エドヒガンとオオシマザクラの雑種

江戸時代末期から明治初期に、染井村の造園師や植木職人たちによって育成されました。一般にエドヒガンとオオシマザクラの交配種であるとされていますが、純粋な交配種ではないとされています。



ウメ 中 北

学名：*Prunus mume*

分類：バラ科 スモモ属

落葉小高木(7-30m) ♀2-3月 ↓互生

□ 中国

古くに焼薬用として中国から渡来しました。果実は梅酒や梅干しなどに利用されます。鑑賞価値の高い花を咲かせる「花ウメ」と薬や食品加工に向く良質な実を付ける「実ウメ」に分けられるそうです。



シャリンバイ 北 応 工

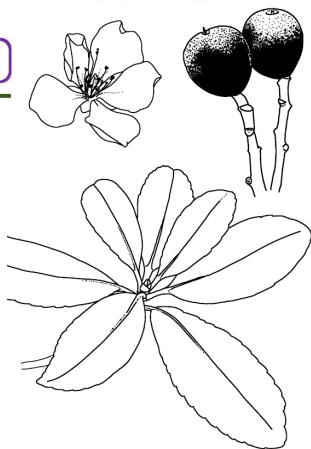
学名：*Raphiolepis indica* var. *umbellata*

分類：バラ科 シャリンバイ属

常緑低木(0.3-4m) ♀4-6月 ↓互生

□ 東北南部～沖縄の暖温帯・亜熱帯

花がウメに似ており、枝葉が輪生状に出ることから名前が付けられました。主な自生地は海岸地帯で、耐潮性が高く、大気汚染にも強いという特徴を持ちます。そのため、街路樹や公園樹に多く用いられます。



カナメモチ

中 運

学名：*Photinia glabra*

分類：バラ科 カナメモチ属

常緑小高木～低木(2-7m) 5-6月 互生

東海～九州の暖温帯

名前の由来にはいくつかの説があり、葉がモチノキに似て、材質が堅く、扇子の要に使われたことに由来するという説などが知られています。本種とオオカナメモチの雑種であるレッドロビン垣根によく利用されます。



ノイバラ

中 北 応 池

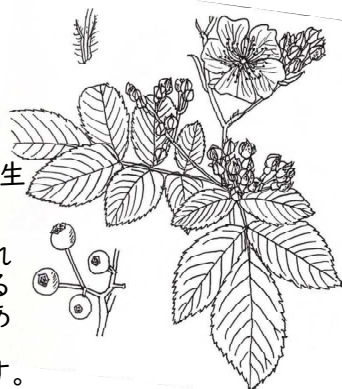
学名：*Rosa multiflora*

分類：バラ科 バラ属

落葉つる性木本～低木(1-2m) 5-6月 互生

北海道～九州の暖温帯

沖縄を除く日本各地の野原や空き地に見られる野生のバラで、「野バラ」として親しまれるものの代表種です。偽果にはほのかな甘みがあり、ジャムや果実酒、装飾用に用いられます。未熟な実を乾燥させたものは漢方薬になります。



MEMO

ナワシログミ

北 工 池

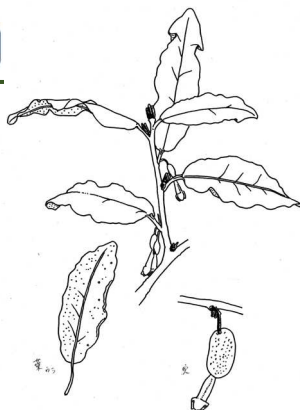
学名：*Elaeagnus pungens*

分類：グミ科 グミ属

常緑低木(1-3m) 10-12月 互生

東海～九州の暖温帯

苗代を作る頃に実が熟すことから名前が付けられました。春に熟す赤い果実は生食でき、他のグミ属の果実よりも渋みが少ないと言われています。枝には棘があることから農家の垣根に植えられることもあります。



アキニレ

中 北 工 運

学名：*Ulmus parvifolia*

分類：ニレ科 ニレ属

落葉小高木～高木(4-15m) 9月 互生

中部地方～九州の暖温帯

秋に開花、結実することから名前が付けられました。黄葉の美しさや丈夫な性質を生かし公園樹や街路樹として利用されています。学名の「*parvifolia*」は「小さい葉の」という意味です。



ケヤキ

中 北 応 工 留

学名：*Zelkova serrata*

分類：ニレ科 ケヤキ属

落葉高木(7-30m) 4-5月 互生

本州～九州の温帯

空に向かって扇形に広がる樹形が美しく、特徴的です。ケヤキ材は比重が重く、堅くて、強靱であり、耐久性や耐湿性も高いため、国産広葉樹木材としては最も良い木材とされています。



ムクノキ

中 応 工 寮 池

学名：*Aphananthe aspera*

分類：アサ科 ムクノキ属

落葉高木(7-20m) ♀5月 ↓互生

関東～沖縄の暖温帯

老木になると樹皮が剥がれることから「剥くの木」と呼ばれたことが語源とされています。葉の表面に光沢はなく、両面とも細かな剛毛があってザラザラしており、紙ヤスリの代わりに使われることもあります。



エノキ

北 応 池

学名：*Celtis sinensis*

分類：アサ科 エノキ属

落葉高木～小高木(5-20m) ♀5月 ↓互生

本州～九州の暖温帯

鳥が実を好んで食べることから「餌の木(えのき)」と名付けられました。昔は子どもたちのおやつとしても人気がありました。材はやや硬く、裂けにくいことからケヤキの代用材として多く利用されます。



マグワ

応 池

学名：*Morus alba*

分類：クワ科 クワ属

落葉小高木～高木(3-10m) ♀4-5月 ↓互生

中国

果実は楕円形で、熟すと紫黒色になります。果実には甘みがあり、生食できます。葉が蚕の餌になるため、養蚕用に栽培されてきました。



ホソバイヌビワ

池

学名：*Ficus erecta* var. *erecta* f. *sieboldii*

分類：クワ科 イチジク属

落葉小高木～低木(2-7m) 4-5月 互生

関東～沖縄の暖温带・亜熱帯

実の形がビワに似るがビワほどおいしくはないという意味でイヌビワと名付けられました。実は微かに甘みがあって生食できます。雌雄異株で雄株にも赤い実がなりますが、硬い上、蜂の巣になっていて食べることはできません。



ブナ

池

学名：*Fagus crenata*

分類：ブナ科 ブナ属

落葉高木(10-30m) 5月 互生

北海道西部～九州の冷温带

ブナの果実は栄養豊富で炒めると甘みがあり、食用となります。ブナは稀に木材として使われることもありますが、水分が多くて腐りやすいことや乾燥によって材が乱れやすいこと、変色し易いことから扱いが難しいです。



クリ

北 広

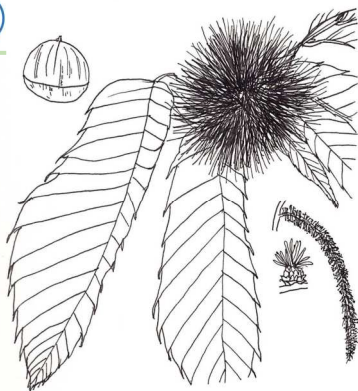
学名：*Castanea crenata*

分類：ブナ科 クリ属

落葉高木(5-20m) 6-7月 互生

北海道南部～九州の温带

現在、食用とされる栗はほとんどが外国産や園芸品種で野生のクリとは区別されています。昔は野生のクリを白でつき、「勝栗」をつくる風習があり、今でも正月に縁起物として食す地域があります。



クヌギ

池

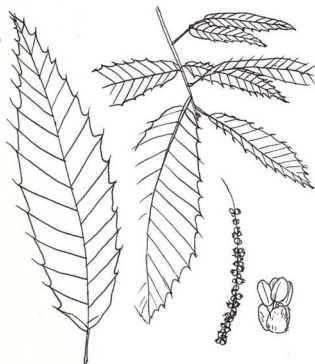
学名：*Quercus acutissima*

分類：ブナ科 コナラ属

落葉高木(7-25m) 4-5月 互生

本州～九州の暖温帯

名前の由来にはいくつかの説が存在していて、ドングリが食べられることから食之木(くのき)、栗の木に似ていることからクリニギ(栗似木)といった説があします。樹皮からしみ出す樹液はカブトムシなどの昆虫が集まります。



アベマキ

池

学名：*Quercus variabilis*

分類：ブナ科 コナラ属

落葉高木(7-25m) 4-5月 互生

中部地方～九州の暖温帯

でこぼこした樹皮の様子を「あばた」に例えた「あばたまき」を意味する岡山県の方言に由来しています。コルク層が発達していて、戦時中はコルクの代用品として利用されていました。そのため、コルククヌギという別名を持っています。



ミズナラ

池

学名：*Quercus crispula*

分類：ブナ科 コナラ属

落葉高木(1-20m) 5-6月 互生

北海道～九州の冷温帯

幹や枝に含まれる水分が多く、燃えにくいことから名前が付けられました。材には虎斑や銀盃と呼ばれる美しい模様が生じ、丈夫かつ加工しやすいことも相まって人気がありました。どんぐりは長さ3センチ程度でコナラよりも大きめです。



コナラ

中

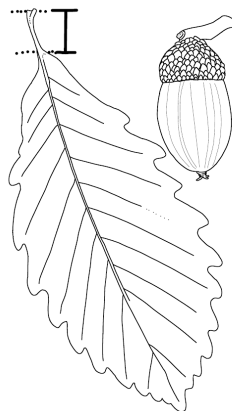
学名：*Quercus serrata*

分類：ブナ科 コナラ属

落葉高木(7-25m) 4-5月 互生

北海道～九州の温帯

ナラの中でも最も一般的であったことから親しみを込めて「小(こ)」が付けられました。どんぐりは長さ2センチ前後で細長い。伐採しても切り株から再生する強い生命力があり、薪炭材として幅広く利用されていました。



アラカシ

中 北 池

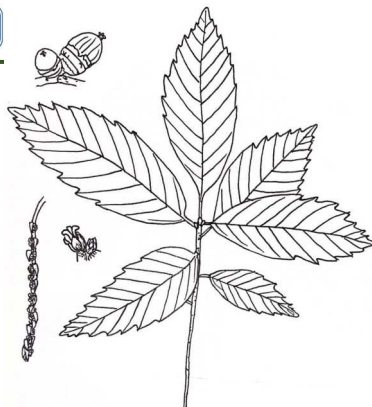
学名：*Quercus glauca*

分類：ブナ科 コナラ属

常緑高木(5-20m) 4-5月 互生

東北南部～沖縄の暖温帯・亜熱帯

葉や枝振りが粗っぽいことから名前が付けられました。カシの間では最も広い範囲に分布しています。温暖な場所を好むため、西日本に多い傾向にあります。どんぐりはタンニンを多く含み、そのままでは食用になりません。



シラカシ

中 北 工 運 棄 留 池

学名：*Quercus myrsinifolia*

分類：ブナ科 コナラ属

常緑高木(7-25m) 4-5月 互生

東北南部～九州の暖温帯

カシ類の中でも材が白いことが名前の由来となっています。どんぐりは縄文時代には食用とされていましたが、タンニンを多く含み、そのままでは食用になりません。鳥や小動物によって運ばれることによって自然と増えます。



スダジイ



学名：*Castanopsis sieboldii* subsp. *sieboldii*

分類：ブナ科 シイ属

常緑高木(7-20m) ♀ 5-6月 ↓ 互生

東北南部～沖縄の暖温帯・亜熱帯

語源は椎茸の原木栽培に用いることから「素台椎」とする説などがあ定説はありません。どんぐりはあく抜きを必要とせず、そのまま食用になります。一般にシイノキというと、関東では本種のことを指します。



ツブラジイ



学名：*Castanopsis cuspidata*

分類：ブナ科 シイ属

常緑高木(7-20m) ♀ 5-6月 ↓ 互生

中部地方～九州の暖温帯

シイの仲間は昆虫によって花粉を運ぶ虫媒花で、雄花は匂いを放って虫をおびき寄せています。どんぐりはスダジイ同様に食用となり、渋みがないため、あく抜きせずそのまま食べることができます。



マテバシイ



学名：*Lithocarpus edulis*

分類：ブナ科 マテバシイ属

常緑高木(5-15m) ♀ 5月 ↓ 互生

九州～沖縄の暖温帯・亜熱帯

日本固有の常緑広葉樹。かつて薪や炭を作るために植栽されたものが野生化し、現在では日本の広い範囲で見ることができます。どんぐりは直径2～3センチ程度で多少の渋さがありますが、アクが少なく、生で食べることができます。



どんぐり

ここでは、学内で見られるどんぐり13種を実物大でご紹介します。
子どもの頃集めたものや初めて見るものも見つかるかもしれません。
ぜひ違いを見比べてみてください。

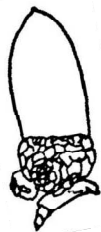
堅果（どんぐり本体）や殻斗（帽子やかまと呼ばれる部分）の両方をよく観察するのがポイントです。このページに特徴を書き込んでみたり、色を塗ってみたりするのも◎！



アラカシ



シラカシ



マテバシイ



ミズナラ



ウバメガシ

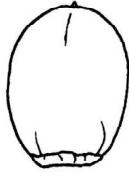


コナラ

*どんぐりの形は同じ種でも変異が大きく、サイズも様々です。
そんな個性も見比べてみると面白いかもしれません。



アベマキ



クヌギ

アベマキやクヌギの帽子は分厚くとゲトゲしています。



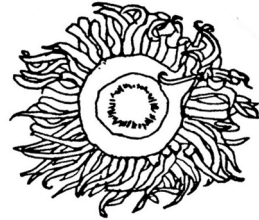
表



ツブラジイ



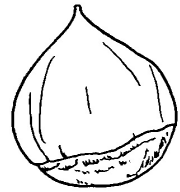
スタジイ



裏

これもどんぐり！？

どんぐりというと、左ページのようなものを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。じつは、広義に「どんぐり」とは、ブナ科の果実の俗称とされています。クリやブナも同じブナ科に属する木で、その果実はどんぐりの仲間です。



クリ



ブナ



イヌブナ

オニグルミ

北 応 エ

学名：*Juglans mandshurica*

分類：クルミ科 クルミ属

落葉高木(5-15m) 5-6月 互生

北海道～九州の温帯

和名は種子を覆う殻の模様が鬼に似ていることや、果実が大きいことに由来し、海外産のクルミと区別するためにオニグルミと呼ばれるようになったとされています。



ニシキギ

中

学名：*Euonymus alatus*

分類：ニシキギ科 ニシキギ属

落葉低木(1-3m) 5-6月 対生

北海道～九州の温帯

枝では板状の突起である「翼(よく)」が発達していることが観察されます。コルク質の翼は、古くから薬用とされてきました。また、紅葉も美しいことから街路樹や庭木として植栽されます。



マユミ

中

学名：*Euonymus sieboldianus* var. *sieboldianus*

分類：ニシキギ科 ニシキギ属

落葉小高木～低木(3-10m) 5-6月 対生

北海道～九州の温帯

弓をつくるのに適した木であることから名前が付けられました。材は柔軟性がありよくなるという特徴を持ちます。果実の形体が特徴的で、紅葉と合せて鑑賞のために良く植栽されます。



マサキ

北 応

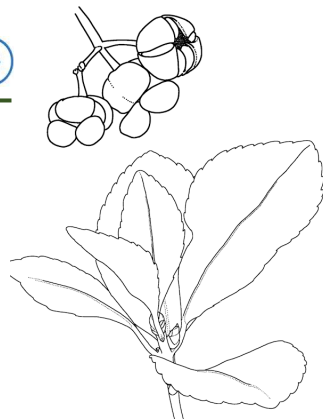
学名：*Euonymus japonicus*

分類：ニシキギ科 ニシキギ属

常緑低木(1-6m) 6-7月 対生

北海道西部～沖縄の暖温帯・亜熱帯

果実は11-1月に紅色に熟し4裂します。開裂した果実の中から現れる、赤色の仮果皮に包まれた種子は美しく、生け垣や庭木として広く植栽されます。



ナンキンハゼ

北

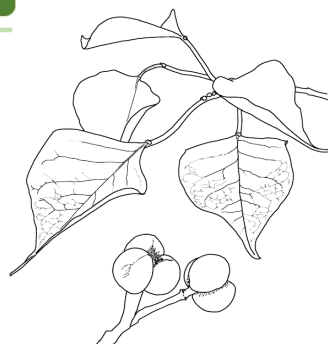
学名：*Triadica sebifera*

分類：トウダイグサ科 ナンキンハゼ属

落葉高木(5-15m) 6-7月 互生

中国

枝や葉に傷をつけると白色の乳液が出る様子が観察されます。種子からロウを採取できる有用木として、江戸時代に日本に持ち込まれました。秋には美しい紅葉を見ることが出来ます。



アカメガシワ

北 工 池

学名：*Mallotus japonicus*

分類：トウダイグサ科 アカメガシワ属

落葉高木(3-12m) 6-7月 互生

本州～沖縄の温帯・亜熱帯

和名は、カシワと同じように葉を食物のせることに用い、新芽が赤いことに由来します。葉の基部に2個の蜜腺があり、アリなどが集まる様子が観察されます。





キャンパスの紅葉



シダレヤナギ

北池

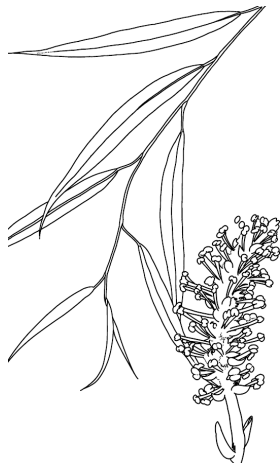
学名：*Salix babylonica*

分類：ヤナギ科 ヤナギ属

落葉高木（5-20m） 3-4月 互生

中国

和名を漢字で書くと「枝垂柳」で、枝が垂れるヤナギであることに由来しています。ヤナギの仲間の中でも、葉が細長い点が特徴的な樹木です。



タチヤナギ

池

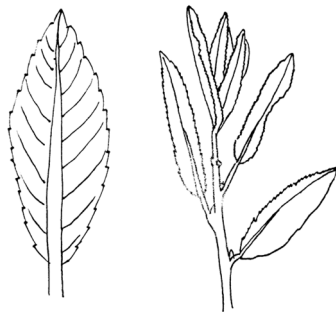
学名：*Salix triandra*

分類：ヤナギ科 ヤナギ属

落葉小高木～低木（2-8m） 3-4月 互生

北海道～九州の温帯・亜高山帯

他のヤナギは1つの花に雄しべが1-2本なのに対し、タチヤナギは雄しべが3本あるという違いがあります。果実が熟すと、綿毛をまとった種子となり、風によって遠くへ飛んでいきます。



ジャヤナギ

池

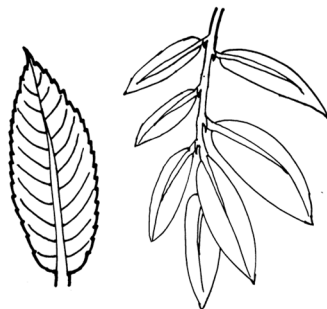
学名：*Salix eriocarpa*

分類：ヤナギ科 ヤナギ属

落葉高木（5-12m） 3-4月 互生

東北南部～九州の暖温帯

葉の裏側が粉白色で、遠くからでもその白さは際立つほどです。このことから別名「オオシロヤナギ」とも呼ばれます。なお、日本では雌株のみが自生していることが知られています。



サルスベリ

北 応

学名：*Lagerstroemia indica*

分類：ミソハギ科 サルスベリ属

落葉小高木～低木(1-10m) 7-10月

互生・対生 中国

和名は樹皮が滑らかで、サルでも登ることが難しいとされたことに由来します。約100日間、ピンク色の花を咲かせることから、別名「百日紅」とも呼ばれます。



ヤマハゼ

エ 運 池

学名：*Toxicodendron sylvestri*

分類：ウルシ科 ウルシ属

落葉小高木～高木(3-15m) 5-6月

互生 関東～九州の暖温帯

枝葉を折ると白色の乳液が出て、この乳液に触れるとかぶれてしまう人も多いので注意が必要です。葉は羽状で秋には真っ赤に紅葉する様子を観察することができます。



ヌルデ

京

学名：*Rhus javanica*

分類：ウルシ科 ヌルデ属

落葉小高木(3-10m) 8-9月 互生

北海道～沖縄の温帯

幹に傷をつけると、白色の樹液がしみ出てきます。和名は、この樹液を器具などに塗ったことに由来します。秋には鮮やかな赤～橙色に紅葉します。葉軸に翼があることが最大の特徴です。



イロハモミジ



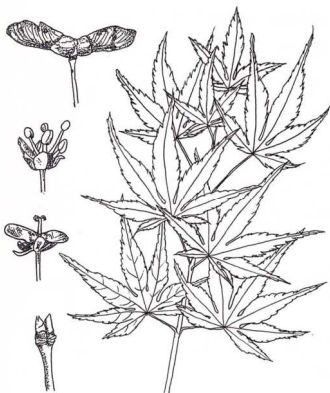
学名：*Acer palmatum*

分類：ムクロジ科 カエデ属

落葉高木(4-15m) ♀ 4-5月 ♀ 対生

□ 東北南部～九州の暖温帯

和名は、葉の切れ込みの数を「いろはにほへと…」と数えたことに由来するとされています。単にモミジというときは普通、本種を指すことが多いです。



ヤマモミジ

池

学名：*Acer amoenum* var. *matsumurae*

分類：ムクロジ科 カエデ属

落葉高木(5-15m) ♀ 5-6月 ♀ 対生

□ 変種

本種はオオモミジの変種とされています。イロハモミジに比べ、葉が大きく、葉の切れ込みも深い傾向があります。材は彫刻材や器具材に利用されます。



ハナノキ



学名：*Acer pycnanthum*

分類：ムクロジ科 カエデ属

落葉高木(7-25m) ♀ 3-4月 ♀ 対生

□ 長野、岐阜、愛知の温帯

東海地方に分布する日本固有種で、春先に咲く紅色の花と秋の紅葉は、共に美しいです。樹皮や葉を煎じたものが洗眼薬として用いられます。愛知県の県木にも選定されています。



トウカエデ

中 北 応 運 寮 池

学名：*Acer buergerianum*

分類：ムクロジ科 カエデ属

落葉高木(5-15m) 4-5月 対生

中国

江戸時代に中国から幕府へ寄贈されたのが始まりとされています。大気汚染に強いため、街路樹として植えられることもあります。葉は浅く3裂し、紅葉で赤～黄色に変化します。樹皮は灰褐色で短冊状にはがれる様特徴的です。



トチノキ

北 エ

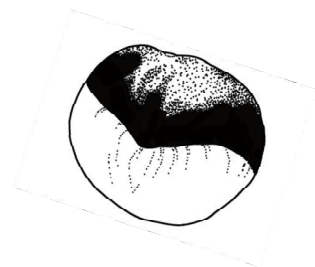
学名：*Aesculus turbinata*

分類：ムクロジ科 トチノキ属

落葉高木(10-30m) 5-6月 対生

北海道西部～九州の冷温帯

種子は渋抜きして、とち餅などの食用に用いられ、材は家具材や建築材、玩具などにも利用されます。朝鮮語でドングリを表す「Totol」が訛ってトチとなったとされます。



キハダ



学名： *Phellodendron amurense*

分類： ミカン科 キハダ属

落葉高木(5-20m) 6-7月 対生

北海道～九州の冷温帯

和名は、樹皮の内皮が黄色であることに由来します。この黄色の内皮は、外用薬や胃腸薬として利用されることもあります。葉をちぎるとミカンのにおいがする点も特徴です。



なぜ植物が薬になるの？

本冊子で紹介している植物にも、生薬の素材に用いられるものはいくつかあります。では、なぜ植物を生薬として利用することができるのでしょうか。それは植物が作る防御物質が強力な生物活性をもち、多様性に富むためです。植物は基本的に動けないため、環境ストレスや捕食者から逃げることはできません。そのため、捕食者や病原菌、環境ストレスに対抗できるような防御物質を作ります。もしも、すべての植物が同じ防御物質を作ってしまうと捕食者などがその物質に対する耐性を簡単に獲得してしまいます。そのため、他の植物が作るできないような成分を持つ植物が生存し、結果として植物が作る成分に強い活性と高い多様性が生まれたのです。

センダン



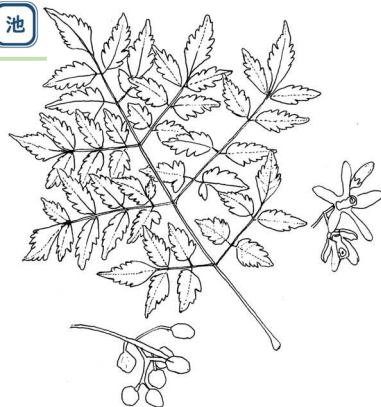
学名： *Melia azedarach*

分類： センダン科 センダン属

落葉高木(5-20m) 5-6月 互生

関東南部～沖縄の暖温帯・亜熱帯

植物全体に毒があり、果実であれば数個で中毒症状を示すほど強力です。その一方で、果実や樹皮は整腸や腹痛、あかぎれなどの漢方薬や駆虫剤に用いられます。



シンジュ

池

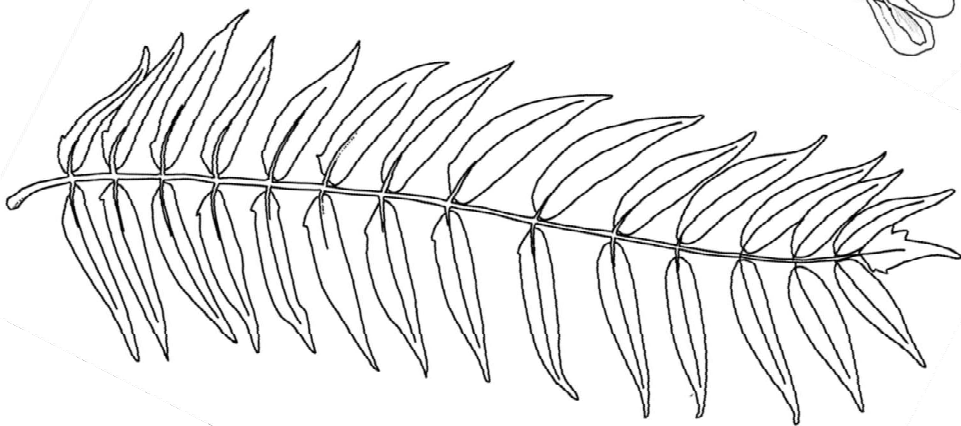
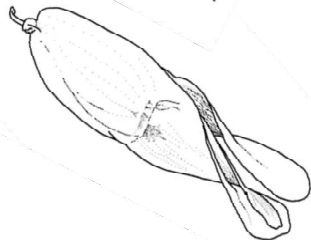
学名：*Ailanthus altissima*

分類：ニガキ科 ニワウルシ属

落葉高木(7-20m) 5-6月 互生

中国

英名の「Tree of Heaven」を和訳してシンジュ（神樹）と名付けられました。葉がウルシに似ており、別名「ニワウルシ」といいますが、ウルシのようにかぶれることはありません。かつては養蚕用に栽培されました。



フヨウ

エ

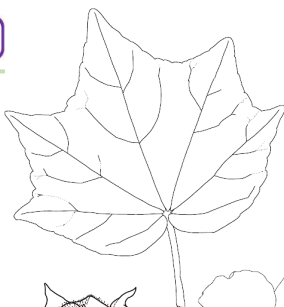
学名：*Hibiscus mutabilis*

分類：アオイ科 フヨウ属

落葉低木(1-4m) 8-9月 互生

中国

「芙蓉（フヨウ）の顔」が美人を称えるたとえて用いられるとおり、美しい淡紅色の花を咲かせます。花は早朝に開き、夕方にはしぼむ一日花です。また、特に日本や中国、韓国では好んで観賞用に栽培されます。



ムクゲ

エ

学名：*Hibiscus syriacus*

分類：アオイ科 フヨウ属

落葉低木(1-4m) 7-9月 互生

中国

大韓民国の国花として知られています。ムクゲはフヨウと同じ一日花ですが、新しい蕾が次々と開花するため夏の間、花を楽しむことができます。1つの木に三色の花を咲かせる三色ムクゲも知られています。



アオギリ

池

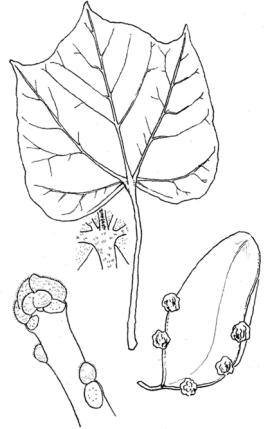
学名：*Firmiana simplex*

分類：アオイ科 アオギリ属

落葉高木(5-15m) 6-7月 互生

伊豆半島、紀伊半島、四国、九州南部、
沖縄の暖温帯・亜熱帯

幹肌が青（緑）色で、葉がキリの葉と似ていることから、アオギリと名付けられました。その美しい幹肌から、ヒメシャラ、シラカンバとともに日本三大美幹木とされています。



MEMO 

ハナミズキ

中 北 運

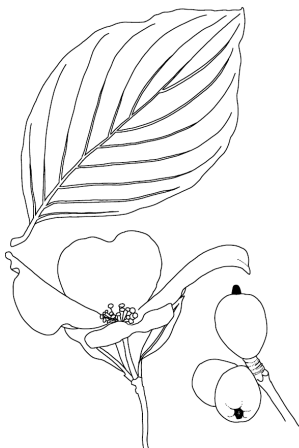
学名：*Cornus florida*

分類：ミズキ科 ミズキ属

落葉小高木(3-8m) ☼ 4-5月 ↓ 対生

□ 北米

大正時代に東京市長がアメリカのワシントンにソメイヨシノの苗木を寄贈した返礼に日本に送られ、別名を「アメリカヤマボウシ」といいます。花弁に見える部分は花弁ではなく、苞(ほう)という葉が変形したものです。



サンシュユ

北 池

学名：*Cornus officinalis*

分類：ミズキ科 ミズキ属

落葉小高木～低木(2-5m) ☼ 3-4月 ↓ 対生

□ 中国、朝鮮

江戸時代に朝鮮を経由して日本に伝来し、薬用植物として栽培が始まったとされます。果実を処理したものは、滋養強壯の効果があります。また、春先には葉をつける前に黄色い花を咲かせます。



ヤマボウシ

北

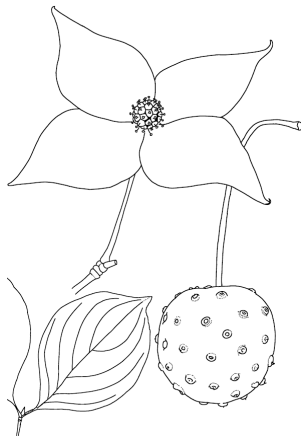
学名：*Cornus kousa*

分類：ミズキ科 ミズキ属

落葉小高木(3-10m) ☼ 6-7月 ↓ 対生

□ 本州～沖縄の温帯・亜熱帯

サクランボのような果実をつけ、赤色に熟した果実は甘く、食用になるため、「ヤマグワ」とも呼ばれます。初夏には、ハナミズキと同じように白色の苞をつけている様子が観察されます。



サカキ

池

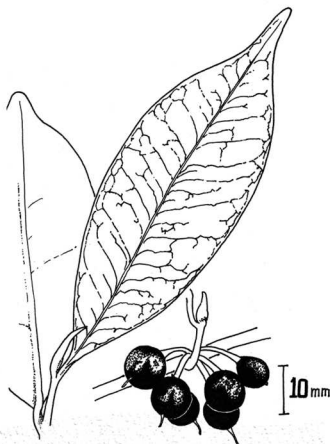
学名：*Cleyera japonica*

分類：サカキ科 サカキ属

常緑小高木(3-10m) 6-7月 互生

関東～沖縄の暖温帯・亜熱帯

神社などに多く植栽され、枝葉は玉串として神事に用いられます。梅雨の時期に花をつけ、はじめは白色ですが、しばらくすると黄色みを帯びます。その後、11月ごろには黒紫色の果実をつけます。



モッコク

中 北

学名：*Ternstroemia gymnanthera*

分類：サカキ科 モッコク属

常緑小高木(3-12m) 6-7月 互生

関東南部～沖縄の暖温帯・亜熱帯

樹皮はタンニンを多く含んでいるため、茶褐色の染料として利用されます。ヘラのような形をした葉が枝先に集まってついている様子が観察されます。



ヒサカキ

応 工 池

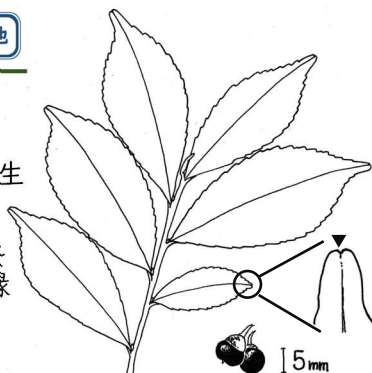
学名：*Eurya japonica*

分類：サカキ科 ヒサカキ属

常緑小高木～低木(1.5-8m) 4月 互生

本州～沖縄の暖温帯・亜熱帯

関東以北ではサカキの代わりにヒサカキを神事に用いる地域が多くみられます。葉の縁に鋸歯があるという点でサカキと区別され、生け垣として植栽されます。



マンリョウ

応 池

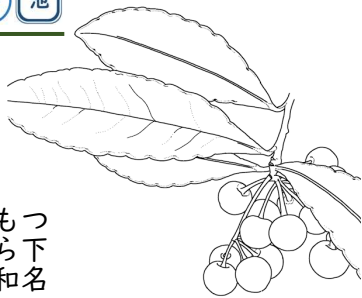
学名：*Ardisia crenata*

分類：サクラソウ科 ヤブコウジ属

常緑低木(0.3-2m) 7-8月 互生

関東～沖縄の暖温帯・亜熱帯

直立した細い幹の上部に波状の鋸歯をもつ葉が集まり、その下に赤い果実を多数ぶら下げる樹形が特徴的です。「万両」という和名は、富を連想させることから、縁起木の1つとして正月に飾られることも多いです。



サザンカ

中

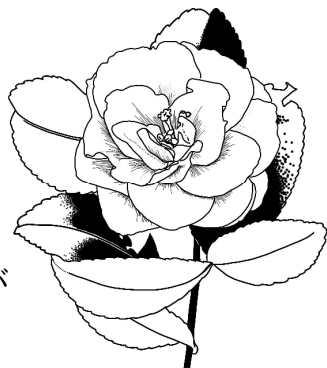
学名：*Camellia sasanqua*

分類：ツバキ科 ツバキ属

常緑小高木～低木(2-8m) 10-12月 互生

山口、四国、九州～沖縄の暖温帯・亜熱帯

花が平たく開いて咲く点や花弁がばらばらと1枚ずつ散っていく点で、見た目が似ているツバキとは異なります。サザンカという和名は、ツバキ科の花を意味する山茶花(さんさか)が転じたものと考えられています。



ヤブツバキ

中 北 エ

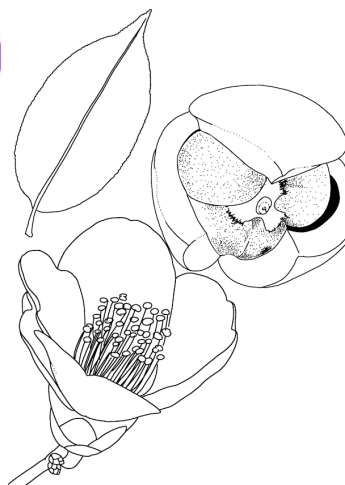
学名：*Camellia japonica*

分類：ツバキ科 ツバキ属

常緑小高木～高木(3-12m) 2-4月 互生

本州～沖縄の暖温帯・亜熱帯

種子からは椿油が採取でき、美容などに利用されます。さまざまな栽培品種があり、花の色や形、開花時期などがそれぞれ異なり、その総称として「ツバキ」と呼ばれています。



エゴノキ

池

学名：*Styrax japonicus*

分類：エゴノキ科 エゴノキ属

落葉小高木(5-12m) ♀ 5-6月 ↓ 互生

北海道南部～沖縄の温帯・亜熱帯

6月頃から果実に混ざり、バナナの房のようなものが枝先についている様子が観察されることがあります。これはエゴノネコアシアブラムシがつくる虫こぶ（虫こぶ）で、「エゴノネコアシ」と呼ばれています。



不思議な虫こぶ

植物の葉や茎に、こぶのようなものができているのを見たことがある方もいるのではないのでしょうか。それはもしかすると、昆虫からの刺激に植物が反応してできた虫こぶだったかもしれません。さて、ここではアブラムシによるアキニレの葉の虫こぶ化の例を紹介します。アブラムシがアキニレの若い枝で養分を吸い取ると、直接葉で吸汁していないのに、葉の縁が巻き込まれ虫こぶ化することがあります。これは、アブラムシの唾液にふくまれている化学成分が枝から葉に伝わり、葉の変形を引き起こされたためと考えられています。このようにして、昆虫は産卵場所やすみかを植物に作らせていますが、そのメカニズムはまだ謎に包まれています。

アセビ

北 エ

学名：*Pieris japonica*

分類：ツツジ科 アセビ属

常緑低木～小高木(1-6m) ♀ 2-4月 ↓ 互生

東北南部～九州の温帯

漢字では「馬酔木」と書き、アセボトキンと呼ばれる有毒成分を含みます。この有毒成分を利用し、かつては葉を煮出して殺虫剤としました。花期には、かわいらしい小さな白い花をたくさん咲かせます。



サツキ

中

学名：*Rhododendron indicum*

分類：ツツジ科 ツツジ属

半常緑低木(0.2-1m) 5-6月 互生

関東西部～近畿、屋久島の温暖帯

他のツツジと開花時期が異なり、旧暦の5月に花を咲かせることが和名の由来となっています。生け垣や公園樹として広く植栽されており、葉が枝先に輪のように集まってつきます。



ヒラドツツジ

北 応

学名：*Rhododendron × pulchrum*

分類：ツツジ科 ツツジ属

半常緑低木(1-2.5m) 4-5月 互生

雑種

古くからの交易の中心地、現在の長崎県平戸市で栽培されてきた歴史を持ち、和名の由来ともなっています。よく植栽されるツツジで、葉も花もツツジの仲間の中では最大級の大きさです。



ドウダンツツジ

中 応 エ

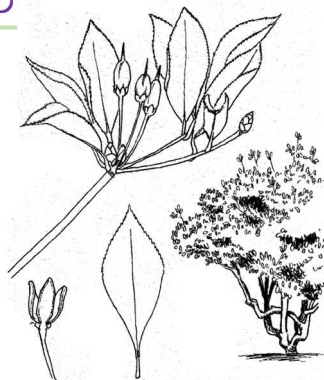
学名：*Enkianthus perulatus*

分類：ツツジ科 ドウダンツツジ属

落葉低木(1-3m) 4-5月 互生

千葉、東海～九州の暖温帯

春には白い壺型の小さな花をたくさん咲かせます。枝分かれする様子が、かつての室内照明である「結び灯台」の脚部に似ていることから、「灯台躑躅(ドウダンツツジ)」という和名が付けられました。秋の紅葉も鮮やかで美しいです。



アオキ

北 応 池

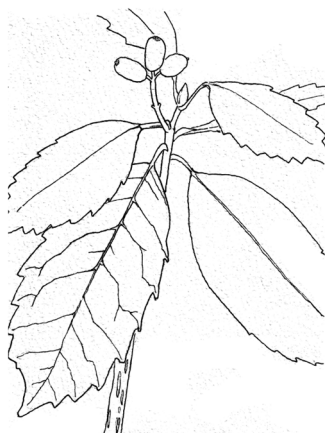
学名：*Aucuba japonica*

分類：アオキ科 アオキ属

常緑低木(0.5-3m) 3-5月 対生

北海道南部～沖縄の温帯

葉は光沢のある深緑色をしており、太い枝も緑色をしている点が特徴的です。秋から春にかけて、楕円形の赤い実をつけているアオキを見ることができます。葉に斑が入っている「ファイリアオキ」を見かけることも多いです。



クチナシ

北

学名：*Gardenia jasminoides*

分類：アカネ科 クチナシ属

常緑低木～小高木(1-7m) 6-7月 対生

東海～沖縄の暖温帯・亜熱帯

果実は黄色の染料に用いられ、無毒であることから食品の着色料としても利用されます。花は白色で香りが強く、庭木や生け垣、公園樹として植栽されます。



シナレンギョウ

応 留

学名：*Forsythia viridissima*

分類：モクセイ科 レンギョウ属

落葉低木(1-2.5m) 4-5月 対生

中国

大気汚染や病害虫に強いいため、街路樹や庭木として植栽され、花期には植物全体が美しく黄色に染まります。漢方において、果実は生薬となり、鎮痛薬として用いられます。



ヒトツバタゴ

北 応 工 池

学名：*Chionanthus retusus*

分類：モクセイ科 ヒトツバタゴ属

落葉高木(5-20m) ♀ 5月 ↓ 対生

長野、岐阜、愛知、対馬の暖温帯

「ナンジャモンジャ」は名前が分からない植物の総称ですが、本種を指すことが多いようです。5月頃に花をつけ、雪のように繊細な白色の花をつけた様子は非常に美しいです。



イボタノキ

池

学名：*Ligustrum obtusifolium*

分類：モクセイ科 イボタノキ属

落葉低木(1-4m) ♀ 5-6月 ↓ 対生

北海道～九州の温帯

本種の樹皮に寄生するイボタロウムシが分泌するロウ状の物質はイボタロウと呼ばれ、かつてはこのロウを止血や強壮作用のある薬や家具のつや出しに利用されました。



キンモクセイ

中 北 応 工 運

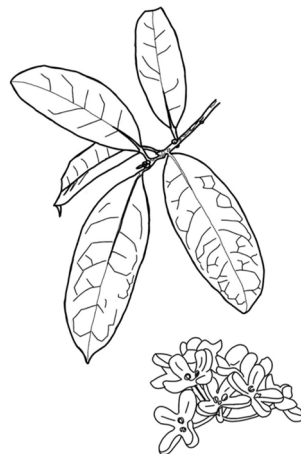
学名：*Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*

分類：モクセイ科 モクセイ属

常緑小高木(3-7m) ♀ 9-10月 ↓ 対生

変種

キンモクセイの変種で、花がオレンジ色であることが和名の由来です。日本に植栽されているほとんどのキンモクセイが雄株であり、ヒイラギを台木とした接ぎ木や挿し木により殖やされます。



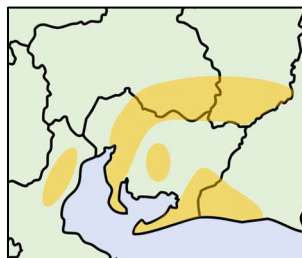
東海丘陵要素植物

東海丘陵要素植物とは？

周伊勢湾地域(右図)の低湿地を中心に特異的に分布する植物種です。

この地域の湿地は、一般に泥炭の堆積がなく、水は貧栄養で比較的低温かつ弱～強酸性です。

こうした地域特有の環境が長期にわたり存在し続けたことで、特異的な植物種が存在しています。



周伊勢湾地域
(東海丘陵要素植物の分布域)

大学内にある東海丘陵要素植物

● ハナノキ



環境省：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
p. 45

● ヒトツバタゴ

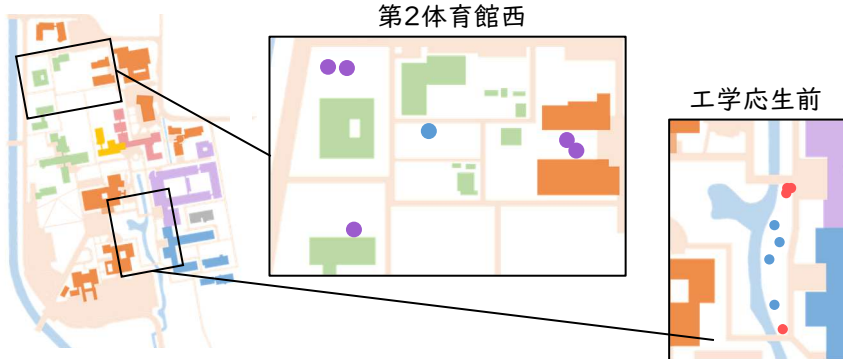


環境省：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
p. 56

● シデコブシ



環境省：半絶滅危惧
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
p. 23



ヒイラギ

北

学名：*Osmanthus heterophyllus*

分類：モクセイ科 モクセイ属

常緑小高木(3-7m) 10-12月 ↓ 対生

東北南部～沖縄の温暖帯

葉の縁の鋭いトゲが特徴的な樹木です。節分にヒイラギの枝葉を玄関に挿す風習がありますが、これはヒイラギの鋭いトゲが鬼(邪気)の侵入を防ぐと考えられてきたためとされています。



ウメモドキ

池

学名：*Ilex serrata*

分類：モチノキ科 モチノキ属

落葉低木(2-5m) 5-6月 ↓ 互生

本州～九州の温帯

主に湿った広葉樹林内や湿地に自生する日本固有の樹木です。和名はその枝付きや葉の形がウメと似ていることに由来します。落葉後に赤い果実だけが枝についている様子は美しく、生け花の花材としても利用されます。



クロガネモチ

中 北 応 工 運 留

学名：*Ilex rotunda*

分類：モチノキ科 モチノキ属

常緑小高木～高木(4-20m) 5-6月

↓ 互生 関東～沖縄の温暖帯・亜熱帯

主に湿った広葉樹林内や湿地に自生する日本固有の樹木です。和名はその枝付きや葉の形がウメと似ていることに由来します。落葉後に赤い果実だけが枝についている様子は美しく、生け花の花材としても利用されます。



アベリア

中 工

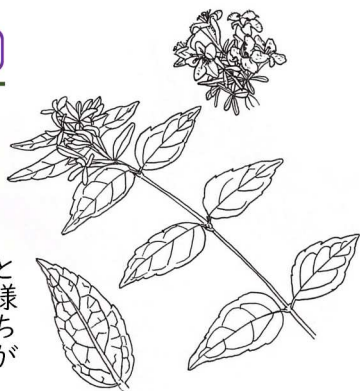
学名：*Abelia × grandiflora*

分類：スイカズラ科 ツクバネウツギ属

半常緑低木(1-2m) ☼ 5-10月 ↓ 対生

☐ 雑種

暑さや寒さに強く、花期も長いため、生垣としてよく植栽される。細い枝がよく伸び茂る様と光沢の強い葉が特徴的です。また、花が落ちた後も、紅色の美しいがく片を観察することができます。



ハコネウツギ

応

学名：*Weigela coraeensis*

分類：スイカズラ科 タニウツギ属

落葉低木(1-5m) ☼ 5-6月 ↓ 対生

☐ 北海道西部～九州の温帯

箱根を中心とする本州の太平洋側の海岸地帯に自生し、アジサイ科のウツギ(空木)と同様に枝が中空であることから和名が付けられました。花は咲き始めは白色ですが、次第に紅色に変化していきます。



トベラ

北 応

学名：*Pittosporum tobira*

分類：トベラ科 トベラ属

常緑低木(1-5m) ☼ 4-5月 ↓ 互生

☐ 東北南部～沖縄の暖温帯・亜熱帯

枝葉を傷つけると臭気を発するため、魔除けや厄除けとして、節分の際、戸口に掲げられてきました。そのため、「扉の木」と呼ばれ、これが転じてトベラと呼ばれるようになったとされています。



キャンパスのシダ植物

学内にはシダ植物がたくさん生育しています。
キャンパスを歩いて、お気に入りのシダを探してみましょう！

学内でよく見かけるシダ3選

学内の川沿いや木の幹で見かけられる種を紹介します。



トラノオシダ [*Asplenium insidum*]

名前は葉形が虎の尾に似ていることにります。下部の羽片が小さく耳状になることが特徴です。構内河川の生け垣、その周辺でよく見かけます。

ノキシノブ [*Lepisorus thunbergianus*]

石垣や樹幹などに多く生育しています。木の幹から生えている緑色の葉はノキシノブであることも多いです。学内でも多くの木や構内河川の生け垣で見ることができます。



イノモトソウ [*Pteris multifida*]

羽片の基部に翼があることが特徴で、胞子を付ける葉（胞子葉）と胞子を付けない葉（栄養葉）で葉の形が異なっています。名前は井戸の周りによく生えていることによります。

岐阜県で見つかったシダ

ギフベニシダ [*Dryopteris kinkiensis*]

名前は岐阜県で発見されたことによりですが、学名は「*kinkiensis*」で近畿のオシダという名前が付けられています。キャンパス内では柳戸試験林で見ることができます。他のベニシダと類似しており識別は難しいですが、鱗片の色や密度、羽片の付き方などから識別することができます。



岐阜大学内のくっつく植物3選

フィールドに出て植物を観察していたら……あなたの服にもくっついていたりかも！そんな植物を紹介します。

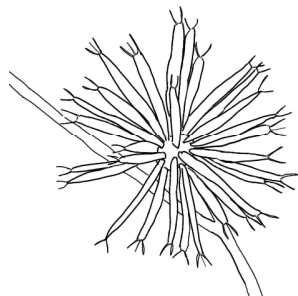
コセダングサ “かえし”のついたトゲでくっつく！

○キク科 セダングサ属

Bidens pilosa L. var. *pilosa*

○くっつく時期：10-1月

セダングサの仲間の果実は、先端に鋭いトゲを持ち、衣服に突き刺さることでくっつきます。先端のトゲとよく見ると、小さなトゲがたくさん生えており、この逆棘が”かえし”のような役割を果たし、抜けにくさに磨きをかけています。



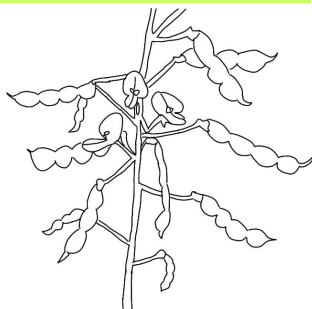
アレチヌスビトハギ まるでマジックテープのよう！

○マメ科 ヌスビトハギ属

Desmodium paniculatum (L.) DC.

○くっつく時期：9-12月

果実の表面にカギ状の毛が密生しており、マジックテープのように衣服にくっつきます。特にセーターなどの繊維質にくっつきやすいです。じつは、ウェットティッシュで拭くと、簡単に剥がすことができます。



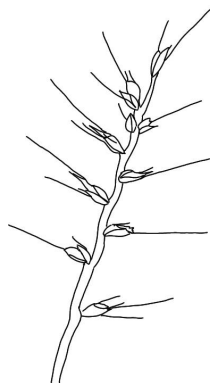
チヂミザサ 凶悪なネバネバ植物！

○イネ科 チヂミザサ属

Oplismenus undulatifolius (Ard.) Roem. et Schult

○くっつく時期：8-1月

細長く伸びている突起から粘液を出しており、衣服にくっつきます。小さな果実が大量にくっつき簡単には取れないことや衣服や触れた手がべたつくことなどから、非常に凶悪な植物だといえます。



岐阜大学の湿生・水生植物

日本に生育する在来の種子植物のうち、湿生・水生植物はわずか**13%程度**しかいません。さらに、その多くが**絶滅の危機**に瀕しています。減っている原因は、開発行為や管理放棄、水質汚濁、乾田化、除草剤の使用、外来植物の侵入などさまざまです。

岐阜大学は、周囲を水田や河川（村山川、新堀川、伊自良川）に囲まれています。さらに、キャンパスの中にも鶺鴒ヶ池、構内河川、水路、水田といった**豊富な水辺環境**があります。実は、現在の場所にキャンパスが移転した1980年代より前まで、この一帯は伊自良川の**氾濫原で後背湿地**と呼ばれる場所でした。

最初に紹介したような水辺環境の変化は大学やその周辺も例外ではありません。しかし、氾濫原的な環境の名残である鶺鴒ヶ池や構内河川には湿生・水生植物がころうじて残っています。その中には岐阜市や岐阜県において**絶滅が懸念されている種**も存在します。

▼ レッドリストのカテゴリーと定義

カテゴリー	定義
絶滅	すでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらし圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらし圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生態条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ類」に移行する要素を有するもの。
情報不足	評価するだけの情報が不足している種

アカバナ科 チョウジタデ属

ミズユキノシタ

【水雪の下】

Ludwigia ovalis Miq.

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類

岐阜県：準絶滅危惧

環境省：一

🌸 6月～10月 🌱 互生 📏 沈水～湿生植物

花は小さくあまり目立ちません。水中の葉に赤みがかかるのが特徴です。鶺鴒ヶ池と構内河川の水中や岸辺に生育しています。多年生のため、冬でも観察することができます。



シソ科 タツナミソウ属

ヒメナミキ 【姫浪来】

Scutellaria dependens Maxim.

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類

岐阜県：準絶滅危惧

環境省：一

🌸 6月～9月 🌿 対生 🟡 湿生植物

白色に少し紫色を帯びた7mmほどの小さい花をつけます。ナミキソウに似て、草姿が小さく繊細なため、この名がつけられました。鶴ヶ池や構内河川にわずかに生育しています。



タデ科 イヌタデ属

サデクサ 【叉手草】

Persicaria maackiana (Regel) Nakai

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類

岐阜県：準絶滅危惧

環境省：一

🌸 7月～10月 🌿 互生 🟡 湿生植物

細長いほこ型の葉や歯車のような形の托葉が特徴的です。茎には下向きの鋭い棘があり、これを利用して大型の植物をよじ登り成長します。構内水路でわずかに見られます。



アブラナ科 タネツケバナ属

ミズタガラシ 【水田芥子】

Cardamine lyrata Bunge

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類

岐阜県：一

環境省：一

🌸 4月～6月 🌿 互生 🟡 沈水～湿生植物

茎は高さ30～60cmまで直立しますが、花が終わると倒れて這うように広がります。「芥子」とはアブラナ科の仲間を指してよく使われる名称で、湿地に生えるアブラナ科という意味で名付けられました。



ウリ科 ゴキヅル属

ゴキヅル 【合器莢】

Actinostemma tenerum Griff.

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：準絶滅危惧

環境省：一

✿ 8月～10月 🌱 互生 🟩 湿生植物

星型のかわいい花が咲きます。卵型の実は真ん中で上下に割れるのが特徴です。

その様子が蓋付きのお椀のように見えることが名前の由来です。鷓ヶ池や構内水路で見られます。



シソ科 アキギリ属

ミゾコウジュ 【溝香霈】

Salvia plebeia R.Br.

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：一

環境省：準絶滅危惧

✿ 5月～6月 🌱 対生 🟩 湿生植物

シソ科には珍しく初夏に咲くのが特徴です。花穂に4mmほどの淡紫色の花が咲きます。葉をもむとシソ科独特の香りがするが、どちらかといえば悪臭系と言われています。漢方薬「香霈」に似ており、溝に生えていることからその名が付けられました。冬にはロゼット葉を広げた姿を構内河川の岸辺で見ることができます。



ガマ科 ガマ属

ヒメガマ 【姫蒲】

Typha domingensis Pers.

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：一

環境省：一

🌸 6月～7月 🌱 互生 📐 抽水植物

ソーセージのような穂は熟すと爆発するように綿毛が出てきます。ガマに比べて葉や花穂が小さいことからこの名がつけられましたが、実はコガマも存在します。花粉は古来からの民間薬として知られ、傷口に付けたり内服されます。根茎や若芽も食べることができます。さながらフランクフルトのようですが綿毛が詰まっていることもあり、残念ながらこの穂は美味しくないそうです。



キク科 オグルマ属

オグルマ 【小車】

Scutellaria dependens Maxim.

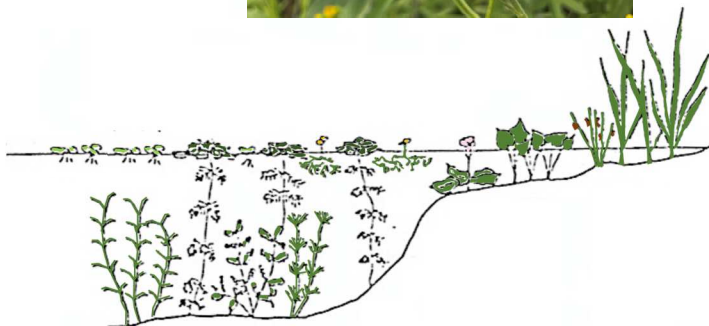
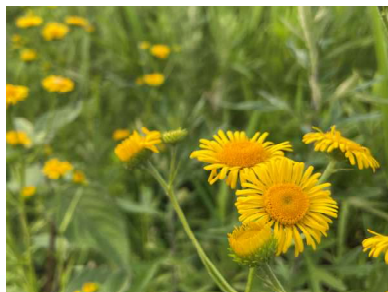
岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：一

環境省：一

🌸 7月～10月 🌱 互生 📐 湿生植物

花を小さな牛車の車輪に見立てて名付けられました。花は漢方として、葉は外傷に用いられます。野生のキクの中でも大きく美しい花をつけることから、園芸用にも栽培されます。大学では水田の脇にわずかに見られます。



身近な似てる植物達

～湿地付近の植物～

ススキ

Miscanthus sinensis Andersson

イネ科ススキ属に属しています。
平地や山地など幅広く生息しています。

花期8-10月です。

ヨシと似ていますが、葉に白い筋があるとススキです。

秋の七草のひとつです。

憎きイネ花粉症の原因です。



ヨシ

Phragmites australis (Cav.) Trin. ex Steud.

イネ科ヨシ属に属しています。

河川や湖沼などの湿地に生息しています。

花期8-10月です。

古事記にて葦原の中つ国と記述があるほど昔は全国に生息していました。

穂がふわふわで気持ち良いです。



～道端付近の植物～

コニシキソウ

Euphorbia maculata L.

トウダイグサ科ニシキソウ属に属しています。
空地や道端など幅広く生息しています。
花期6-9月です。
葉に赤い斑点があります。
ポンド草の名で親しまれています。
北アメリカ原産の外来種です。



オオニシキソウ

Euphorbia nutans Lag.

トウダイグサ科ニシキソウ属に属しています。
空地や道端など幅広く生息しています。
花期6-10月です。
コニシキソウより大型で葉も大きいです。
茎を折ると白い乳液がでます。



コミカンソウ

Phyllanthus lepidocarpus Siebold et Zucc.

コミカンソウ科コミカンソウ属に属しています。
畑や道端などに生息しています。
花期7-10月です。
ミカンのような小さな果実をつけます。
土からはがすとすぐに葉が閉じます。
乾燥させてお茶にすることができます。



索引

ア行

アオキ	55
アオギリ	49
アカメガシワ	41
アキニレ	32
アスナロ	18
アセビ	53
アベマキ	35
アベリア	59
アラカシ	36
イチイ	20
イチヨウ	16
イヌマキ	17
イボタノキ	56
イロハモミジ	45
ウメ	30
ウメモドキ	58
エゴノキ	53
エノキ	33
エンジュ	27
オニグルミ	40

カ行

カツラ	27
カナメモチ	31
キハダ	47
キンモクセイ	56

クスノキ	24
クチナシ	55
クヌギ	35
クリ	34
クロガネモチ	58
クロマツ	17
クロモジ	26
ケヤキ	32
コナラ	36
コブシ	22

サ行

サカキ	51
サザンカ	52
サツキ	54
サルスベリ	44
サワラ	18
サンシュユ	50
シダレヤナギ	43
シデコブシ	23
シナレンギョウ	55
シモクレン	23
ジャヤナギ	43
シャリンバイ	31
シュロ	26
シラカシ	36
シンジュ	48

スギ	20
スタジイ	37
センダン	47
ソテツ	16
ソメイヨシノ	30

タ行

タイサンボク	22
タチヤナギ	43
タブノキ	25
ツブラジイ	37
トウカエデ	46
ドウダンツツジ	54
トチノキ	46
トベラ	59

ナ行

ナワシログミ	32
ナンキンハゼ	41
ナンテン	26
ニシキギ	40
ヌルデ	44
ノイバラ	31

ハ行

ハクモクレン	23
ハコネウツギ	59
ハナノキ	45
ハナミズキ	50
ヒイラギ	58

ヒサカキ	51
ヒトツバタゴ	56
ヒノキ	18
ヒラドツツジ	54
フジ	28
ブナ	34
フヨウ	48
プラタナス	27
ホオノキ	24
ホソバイヌビワ	34
ホソバタブ	25

マ行

マグワ	33
マサキ	41
マテバシイ	37
マユミ	40
マンリョウ	52
ミズナラ	35
ムクゲ	49
ムクノキ	33
メタセコイア	19
モッコク	51

ヤ行

ヤブツバキ	52
ヤマハゼ	44
ヤマボウシ	50
ヤマモミジ	45
ラクウショウ	19

参考文献

書籍

- 高橋秀男 (2009) 『葉っぱ・花・樹皮でわかる樹木図鑑』 (池田書店)
- 岩瀬徹・大野啓一 (2004) 『写真で見える・植物用語』 (全国農村教育協会)
- 森昭彦 (2020) 『帰化&外来植物見分け方マニュアル950種』 (社務和システム)
- 島田亨 (2008) 『つる植物で庭を彩る』 (日本放送協会出版協会)
- 齊藤和季 (2017) 『植物はなぜ葉を作るのか』 (文藝春秋)
- 牧野富太郎 (2017) 『新分類 牧野日本植物図鑑』 (北隆館)
- 林将之 (2020) 『山溪ハンディ図鑑14 増補改訂 樹木の葉』 (山と溪谷)
- 長谷川仁 (1987) 『昆虫とつき合う本』 (誠文堂新光社)
- 角野康郎 (2014) 『ネイチャーガイド日本の水草』 (文一総合出版)
- 角野康郎 (1994) 『日本水草図鑑』 (文一総合出版)
- 浅井元朗・西廣淳 (2022) 『田んぼや水辺で見られる芽生えハンドブック』 (文一総合出版)
- 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (2021) 『[フィールド版]改訂新版 日本の野生植物 I ソテツ科~コミカンソウ科』 (平凡社)
- 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (2021) 『[フィールド版]改訂新版 日本の野生植物 II ミゾハコベ科~スイカズラ科』 (平凡社)
- 林弥栄・門田裕一 (2013) 『山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花 増補改訂新版』 (山と溪谷社)
- 水草保全ネットワーク (2018) 『みんなが知りたいシリーズ⑩水草の疑問50』 (成山堂)
- 桶川修・大作晃一 (2020) 『くらべてわかるシダ』 (山と溪谷社)

ウェブサイト

- ・岐阜市 (2015) 「岐阜市の注目すべき生きものたち 岐阜市版レッドリスト・ブルーリスト2015」 (<https://www.city.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/1010761/1003010/1003011.html> 2023年1月10日閲覧)
- ・岐阜県 (2015) 「岐阜県レッドリスト (植物編) 改訂版」 (<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/9779.html> 2023年1月10日閲覧)
- ・愛知県 (2020) 「レッドデータブックあいち2020」 (<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/rdb/index.html> 2023年1月10日閲覧)
- ・北海道(も)見ることのできる樹木 (http://www.m-ac.jp/tree/hokkaido/alphabetical/index_j.phtml 2023年2月6日閲覧)
- ・木のぬくもり・森のぬくもり (<https://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>)
- ・松江の花図鑑「島根県松江市の野草樹木シダの名前が分かる植物花図鑑」 (<https://matsue-hana.com/2023年2月6日閲覧>)
- ・葉と枝による樹木検索図鑑 (<https://elm3.web.fc2.com/index.html> 2023年2月6日閲覧)
- ・庭木図鑑植木ベディア (<https://www.uekipedia.jp/2023年2月6日閲覧>)

論文

- 植田邦彦. 東海丘陵要素の植物地理 I. 定義 (1994)

出版日：2023年2月20日
2023年3月29日（改訂版）

作成者：

岐阜大学キャンパス植物マッププロジェクト

中藤 駿（自然科学技術研究科修士1年）

金元 和奏（応用生物科学部2年）

高城 和佳（応用生物科学部2年）

田中 ひなた（応用生物科学部2年）

羽賀 舞人（応用生物科学部2年）

片山 義章（工学部2年）

堀部 真生（応用生物科学部1年）

